

ミュージズ N0. 26 平和のための博物館・市民ネットワーク 通信

発行:2011年2月

編集:山辺昌彦、山根和代、安齋育郎

翻訳:今井てるみ、谷川佳子、森岡純子

イラスト:戸崎恵理子

事務局所在:戦争と平和の資料館ピースあいち

住所:〒465-0091 名古屋市名東区よもぎ台 2-820

TEL/FAX 052-602-4222

海外のニュース

第7回 世界平和博物館会議（5月にバルセロナにて）

テーマ: 戦争・暴力の文化から平和・非暴力の文化へのトランスフォーメーション（移り変わり）における博物館の役割

主催: 世界平和博物館ネットワーク
共催: バルセロナ国際平和資料センター
期間: 2011年5月4日～7日
場所: バルセロナ市モンチュイク城

20世紀は人類史上もっとも暴力的な世紀であったと同時に、非暴力、草の根抵抗・平和運動の力にあふれた時代でもありました。人類の苦悩と残虐さの足跡を刻む博物館や戦跡も、和解と平和創造の場へと変様してきています。

1世紀、世界中で軍縮を進めて貴重な資源をわちあい、ユネスコ憲章の前文にある通り、人間同士の心の鎧をとり外すことが急がれています。平和博物館はこのような大事な問題を広く社会にアピールし平和の文化を育てるための大きな影響力をもっています。バルセロナのモンジュク城は、INMPが戦争・暴力の文化から平和・非暴力の文化への社会改革を世界へ発信するのにふさわしい場所です。この要塞はたびたび戦場となり、かつ監獄、処刑場ともなったところで、ここ数十年は軍事博物館となっていました。ごく最近市民の文化の砦として生まれ変わり、バルセロナ国際平和資料センターも設立され、戦争から平和へのトランスフォーメーションのモデル、シンボルとなりうる存在です。

この会議は多くのセッションで構成されます

*5000の平和市長・5000の平和博物館

- *軍事・戦争博物館から平和博物館への転換の可能性
- *平和博物館や他の博物館における新たなメディア、技術の活用
- *平和・人権博物館の構想
- *貸出・移動展覧会に関する交流
- *平和ミュージアムの新設、リニューアル
- *平和博物館の地域連携作りと平和博物館の連携の強化

資金も含めて運営の問題も議論され、最終日に第8回会議に関する情報も含め総会を行います。残念ながら今回は参加者を60名に限定し、INMPのメンバー優先、参加費納入の先着順となります。参加に関する詳しい情報は以下へお願いします。

www.museumsforpeace.org

ブラッドフォード平和博物館

ヨークシャー州の平和: 戦争と平和の道程

この新しい催しはヨークシャー州における初期から今日までの平和活動家、平和団体、社会改革者の紛争解決と平和活動に注目しています。知名度の高いものも低いものもヨークシャー全体の多くの地域からの例を展示しています。

長さおよび大きさ: A2の大きさ(60cm×44cm / 24"×17") ラミネートしたパネルの横長の形



Erico

展示物貸出の詳細は下記の連絡先へ

<http://www.peacemuseum.org.uk/peace-of-yorkshire-the-ridings-in-war-and-peace>

ブラッドフォード平和博物館は市の中心地のポップアップギャラリーで1月11日(火)から特別展“視覚化された声：女性の抵抗のアート”一を展示いたします。

ブラッドフォード平和博物館所蔵のイギリス最大の平和バナー（横断幕）コレクションとともに、過去100年間に女性たちが創りだした反戦アートを展示します。女性の反戦アートは、さらに平和な世界の構築に向け創造し行動するよう我々を勇気づけます。

開催時間：火曜日から金曜日の午前10時～午後6時まで

小さなものですが、これは平和博物館が開催した最もよいもののひとつです。平和博物館のコレクションから最も代表的、感動的な旗を選びすぎりました。メディア、博物館、ギャラリー、平和活動、女性の組織等出来るだけ多くご来館いただくことを願っております。

どうぞ、このすばらしい催しにお越しくださいます。あなたの知人にも広げてください。ブラッドフォード博物館と我々の新しい催しを見るまたない機会です。

ブラッドフォード博物館館長

クライブ・バレット牧師

www.peacemuseum.org.uk

平和の文化を求めて

OMNI 共同発起人 ディック・ベネット

平和、正義、環境保護のOMNIセンターは2001年から戦争への抵抗と平和、正義の確認の活動を始めました。アメリカの持つ戦争肯定気質—インドでの200年続く戦争にはじまり最近50年間の多くの侵攻（ベトナム、グアテマラ、ニカラグワ、パナマ、アフガンとイラク）が示すように一を認識し、その口実に反対し、また地域レベル・国家レベルでそれらの暴力がどのような影響をもたらしたかを公表することに努めてきました。我々は一つの小さな町の小

人数のグループです。しかし我々は、始まりは小さくても大きく広がることができるし、無言・無抵抗ではなにも変わらないということを確認しています。我々の時代ではこのような国家の歴史を変えることはやりきれないので、旧態依然とした暴力の構造に対して抵抗する永続的なしくみを創ろうとしました。

これらの旧構造の一つは帝国主義と切っても切れない軍国主義です。前上院議員のJ.W.フルブライトは著作「ペンタゴン：宣伝マシーン」のなかで、慢性的な戦争状態の中では愛国的な軍国主義が合法的な政治と市民の要求を駆逐する「官僚主義の怪物」となり、愛国主義は反対意見を抑圧すると強調しています。

たとえば学校襲撃と空中戦といったように、地域レベルの暴力と国家レベルの暴力とは相乗・影響しあうので、我々は「地球・地域レベルで考え行動する」ことをモットーにしています。立ち上げ当初からアーカンサス死刑廃止連合、家庭内暴力被害者支援活動など地域の非暴力活動団体を支援し、地域、国家における平和、正義、生態系保護団体と連携して来ました。人間同士、自然に対する暴力に反対するための企画は以下の通りです：

毎月の戦争反対の読書、毎年8月のヒロシマ・ナガサキの記念、その他の戦争犠牲者、集会、アフガニスタンとイラク侵攻、世界平和公園、非暴力の英雄の顕彰、出版されていない平和についての著作への賞、本の討論会、権利の章典と世界人権宣言の顕彰、十代のリーダーシップ団体、女性援助団体、高校における職業選択情報の提供、宗教社会、平和的伝統行事についての集会、気候変動の特別委員会、350 PPMのEメール情報の討論会

我々の抗議と確認の活動の多くは深く関係し合っており、たとえば歌や朗読で抵抗と祝福を表明する「オープン・マイク」という平和と正義のための月例イベントもあります。我々はまた、世間の多数派から注目されなくとも、環境保護と正義のために活動する同じ考えをもつ人々とネットワークをもっており、アーカンソー大学の学生と学部（例えば、非暴力と多様性、寛容、難民の学生）を支援しています。そして、OMNIの建物も購入しました。

現在の文化が戦争文化なら、未来の文化は平和文化になりえます。平和の文化とは何でしょうか。エリス・ボールディングは「平和文化は、相互の扶助、福祉、平等な仕組みによって平和的な多様性を促進します、いいかえれば違いを尊び、助け合い、生きとし生ける全ての物たちがこの地球の恵みを等しく分けあうこと」であると述べています。

OMNI Center for Peace, Justice & Ecology

平和、正義、環境保護 OMNI センター代表

グラッディズ・ティファニ

www.omnicenter.org

3274 No. Lee Ave, Fayetteville, Arkansas USA

イタリアの平和博物館活動：ミラノ

5月27・28日、2つの平和教育講座がマルコポーロ技術専門学校の2つのクラスで一日2時間ずつ行われました。

プログラム

集会「平和を求めるなら平和を準備せよ」

5月27日

8:15 イタリア平和博物館会議の紹介、ピエトロ・カルーリ当会議会長

8:25 平和教育 ピエラ・ナネッティ・カラメリーノ教授の戦争体験談

9:10 フォンタナスクエアの虐殺 目撃者ジャンカルノ・カラメリーノンカルノ

9:20 ゴーラ空襲の映像（インターネットで）

9:35 ロシア戦線の生存者証言：ピエトロ・ファブリス

9:50 ディベート

10:00 まとめ

5月28日

8:15 イタリア平和博物館会議の紹介、ピエトロ・カルーリ当会議会長

8:25 平和教育 クラウディア（4年生）による朗読「ピエラ・ナネッティ・カラメリーノの思い出」

9:10 「1940年ごろ何が起こったか」フランチェスカ・マザラ教授

9:25 「少年兵」目撃者 コンゴ宣教師ネリオ・ブロッカルド神父

9:35 ロシア戦線の生存証言：ピエトロ・ファブリス

10:00 ディベートとまとめ

生涯学習大学（U3A）での平和教育の授業

生涯学習大学の支所でありミラノの重要な協会であるウマリタニア大学で2010～2011年6月9日、ウマリタニア大学における平和教育授業実践への要望について話し合い、以下の日程で授業計画が決定。

2010・10・19 2010・11・23

2011・1・18 2011・2・22

2011・3・22 2011・4・12

ゴーラにおける2010・10・22のイベント

1944年のゴーラ空襲を記念するため2010年10月22日に集会を計画、2つの学校の学生たちが教会に集まり空襲の犠牲者の子どもたちの記念碑に一人ずつ花を捧げたあと、平和スピーチ、美術コンテスト、展示会、DVD上映等の催しに参加、晩には音楽会開催

会長ピエトロ・カルーリ、
事務局ティナ・レヴァッティ

Envision Peace Museum（エンヴィジョン・ピースミュージアム）：アメリカ平和博物館設立会議

2010年6月4・5日 Envisionは「戦略的計画会議」を開き、平和博物館の理事会が5年計画を確定するために責任を共有する83人の高い志をもった人びとが集まりました。2日間にわたり「フィラデルフィア市に平和博物館を」というひとつの理想の下に熱心に協働しました。

提言のひとつは魅力的で礎石となるミニ・ミュージアムを作ることです。ではミニ・ミュージアムとはどのようなものでしょうか？建物取得委員会は以下のような案を提示しました：

*想定される来館者：一般市民、デラウェア地域住民、国内外からの年間数百万人の来訪者、世界の未来を担う青少年、学校、個人、家族単位でワークショップ等に参加

*立地：既存の建物の一階部分、人通りの多い歴史観光スポット、他の有名博物館の周辺

*大きさ：展示室、講義室、事務所、ショップを含み約1600㎡

平和というのは複合した概念を持つので、まず来館者におおのの平和についての信条や感性を確かめてもらいます。そしてそこから威嚇や戦いをやめるための非暴力の方法を歴史、実践等を知ることを通して学び、自分の暮らし、コミュニティの中にそれを応用していくことを促します。

最終的な目標となるミュージアム像はこれから明らかにされていきます。以下は展示内容委員会で検討されていることです。

平和の源

より力強い力：行動的非暴力

世界のすみずみまで平和構築を

平和博物館の建設

有名なピースメーカー、一般の人びとの実話の活用は重要で有効なツールとなります。とくにインパクトの大きい物は劇仕立てとし、ピースメーカーが一体どのようにしてそれを成し遂げたのか、その意義や達成感を感じ取るようにしてもらいます。兵士にとってしばしば戦争はアドレナリンを増産するものといわれますが、ミュージアムのひとつのチャレンジは、若者の間に特に多い、戦争を冒険に見立てる考え方に対抗しようとするものです。力強い展示物によって、ミュージアムは来館者を鼓舞し勇気づけるでしょう。同時に、ミュージアムはひとりひとりの日常の中で平和を行動に移す方法を提示したいと思います。

（2010年秋のニュースレターから）

ハラジャ慰霊碑と平和博物館：イラク

ハラジャ慰霊碑と平和博物館、ハラジャ市長と化学兵器犠牲者団体の代表は2010年11月4・5日イギリスを訪問、マンチェスター市長と他の国の市長の出席の下、マンチェスター市での大きな平和会議に参加しました。会議の目的は世界中の大量破壊兵器の廃絶であります。

また、ハラジャ代表はハラジャの化学兵器攻撃犠牲者5000名の追悼のために1988年3月16日に植樹されたマンチェスター市のハラジャ平和の木を訪れました。

2010年11月7・8日、我々はロンドンで英国国会議員に会い、ハラジャの化学兵器犠牲者に関し、どうしたらハラジャ化学兵器攻撃が国際社会で大虐殺として認識されるかを議論しました。議会議員は、この件について我々を支援する意思を示し、ハラジャを2011年1月に訪れることを決めました。

マームッド・ハマ・アミン

ハラジャ遺跡と博物館館長

www.halabja-monument.net

イタリア平和博物館会議

2011年12月16日に行われた平和イベント

「ピースウォーク：平和を求めるなら平和を準備しよう」の報告

このピースウォークには呼び掛けた22の小中高等学校のうち、小学高5年生1クラス、中学校1年生、3年生5クラス、芸術系中学校4年生、5年生2クラス、技術専門学校4年生、5年生2クラス、計197名の生徒と先生達が参加しました。

午前9時半にクラリセ尼僧教会に集まり、当平和博物館会議のメンバーが子ども達ひとりひとりに花を配り、このイベントの目的と意味を話しました。参加者全員でゴーラ爆撃（小学校が空爆を受け多くの子ども達が犠牲になった）による「小さな殉教者」慰霊碑の立つ共同納骨堂を訪れ、花を手向け黙とうしました。

寒くよく晴れた日、私たちは警察官と山岳警備隊とに守られてピースウォークを開始しました。慰霊碑を出発し、奉納灯、空襲犠牲者の名前を刻んだ碑のあるマリグノニ・マルコ・ポーロ技術専門学校に到着、ろうそくに点灯、献花をしました。

ディ・ヴォナ・スペリ中学校の2クラスは、手作りのすばらしい平和バナー（横断幕）を掲げて参加、記念写真撮影もしました。

続いて、マリグノニ・ポーロ研究所でのエルネスト・テオドロ・モネータ（イタリア唯一のノーベル平和賞受賞者・1907年）とロシアでの戦争とに関する平和パネル展覧会（当会が開催）を見学、少し

おやつを食べて休憩、ピエトロ・カルーリ当会会長が挨拶した後、以下2つのビデオを見ました。

1) 「子ども達の目には虹を」：カラバジジオ芸術学校の生徒作品。過去と現在の映像を重ね、過去の苦難の向こうにある、多彩で光と平和にあふれる子ども達の未来への祈りを描く。

2) 「善良なサマリタン」：ピエトロ・ファブリスの放浪と1941年から44年のロシア侵攻従軍体験談からなる作品。「善良なサマリタンとは国籍、宗教、肌の色の違いを超えて人助けをする人」というメッセージを語る。

ミラノ第2学区の全ての学校向けに、当会主催の第一回のコンテスト（1. 詩と文学部門、2. 歌唱と音楽部門、3. 絵画と複合アート部門）と受賞（2011年5月授与）についてアナウンスがありました。また、ティナ・フェリシタ・レヴァッティさんは自費で特別コンテストを主催、ミラノの全ての高校の全学年向けに当会を通して公募します。これは彼女の父マリノ・レヴァッティを含むロシア戦線でのイタリア人戦没者全員を慰霊するためのプロジェクトでテーマは「ロシアでの戦争と捕虜一兵士の苦難と平和への渴望」、3つの作品が選ばれ、受賞作はミラノ現代芸術ミュージアムに展示され、当会の今後の展覧会に自由に活用されることとなります。

ピエラ・カラメリーノさんが平和教育について参加者に話し、「善良なサマリタン」のDVDが教師、生徒全員に配布されました。ピースウォークの成功を全ての参加者が喜びあい、各校それぞれの事後のふりかえりを期待してイベントは12時半に閉会されました。

会長 ピエトロ・カルーリ

平和な時代：米国のアトランタ

2011年 冬季号

子どもピースセンター・アンドリア・メルハム

明けましておめでとうございます！

2011年は素晴らしい一年になりそうです。ここアトランタでは、新年は悪天候に見舞われましたが、このような試練にどうやって対処するかは私たち次第です。家に閉じ込められると短気になったり、イライラしやすくなったり、神経質になりますか？それとも、リラックスして家の中で過ごす数日を楽しむ方法を探すことが出来ますか？例えば、長い間読みたいと思っていた本を読んだり、いつの間にかいっばいになってしまった戸棚や引き出しを片付ける時間を見つけたり？今回の「自分らしく」のコーナーでは、私たち一人ひとりの中の平和、試練の時にあってもどうやって心の中の平安を見つけるかについて考えます。

それでは、良い年始をお過ごしください。また、
平和で健康で安全な冬をお過ごしください！

<目次>

いじめ対策

テイスト・オブ・アクワース祭

リサイクリング

ありのままの自分

お薦めの本

Action Alert

人生のレモン（辛い時）

お礼の言葉

いじめ対策- 自尊心を確立するために

お互いの言葉に耳を傾けることは対立を避けるための大切な手段です。お子さんの言っていることが大切なことかどうか判断する前に、まず話を聞いてあげてください。大人が、無意味、または重要ではないと思う状況も、子供にとってはその逆の場合もあります。私たち大人がどうやって人の言葉に耳を傾げるかのお手本になれば、子供達もきっと同じようにするでしょう。

お子さんがいい子にしていたり、何か良いことをしたりした時は、褒めてあげてください。そうすると、子供はもっと良いことをするようになるでしょう。

Taste of Acworth 祭 当選者の発表

2010年10月に行われたテイスト・オブ・アクワース祭にピース・カーで出店しました。スタッフ一同楽しい一日を過ごしました。そして、ご来場の皆さんに抽選で素敵な賞品を差し上げました。

トレーシー・ピーコーンさんがベビーバスケットを獲得、そしてマーガレット・コーリーさんが子供用バスケットを獲得しました。

座右の銘

自分の中に幸せを見出せないのなら、世界のどこに行ってもそれを見つけることは出来ない。どこに行っても自分がいるだけである。人はいつも自分と共にいる。

CPC（子供ピースセンター）でリサイクルを

CPCにリサイクル品を持って来ていただくと、私たちの活動資金になります。ぜひ、インクカートリッジや携帯電話をリサイクルしてください。

皆さんの大切なお金を使わずにサポートしていただく一つの手段です。

詳細はお問い合わせください。

ありのままの自分

ステファン・コステン

今月は、ピースセンターの4つのコンセプトの一つに焦点を絞ります。そのコンセプトとは、「ありのままの自分」でいることです。自分の中の不思議や美しさを発見することから平和は始まります。感情や気持ちを探り、自尊心を覚え、自分の才能や独自性を発揮してください。ここで大切なことは、自分の内に平和を見つけることのようにです。

まず、平和とは何か、と言う定義から始めましょう。「平和」と言う言葉は様々な意味があるので、「心の平穏」、または「心の平和」に焦点を絞らしましょう。これは、個人レベルで私たちに関係するものです。これには3つの適切な定義があり、（1）静寂、平穏の状態（2）静寂を破ったり抑圧的な思考からの解放（3）人間関係の調和、です。これらの定義を読んで真っ先に私の頭の中に浮かんだのは、平和とはある特定の心の状態から来るものである、と言うことです。つまり、それは人からももらったり、ピースストアから買ったりできるものではない、と言うことです。それは、私たちが自分で考えることによって達成するものです。自分の心の中に対立がない状態です。ここで重要なことは、外の世界の対立は心の平和に影響を及ぼすものではないと言うことです。実は、外の世界の対立は私たちの内面の成長に欠かせないものです。

モリーとベルベット

子供図書館員・共感教育員 エイダ・デムロウ

良い物語と言うのは、まるで自分が違う時間と場所に行ったかのような気にさせてくれる、かけがえのないものです。だからこそ、物語は平和な世界を築くために非常に重要なものです。

自分が他の誰かになったような気になるには、物語を読むこと以上に良い方法があるでしょうか。良い物語のレンズを通して、私たちは自分を、そして人をもっとよく見ることが出来ます。

子供図書館員及び共感教育員である私は、親切心を植え付け、平和を育てると言う本の持つ力を繰り返し目の当たりにします。私がこれまでに何度も使った2つの物語には、楽しいと同時にありのままの自分であることの大切さについて色々なことを教えてくれる2人の勇敢なキャラクターが登場します。モリーもベルベットもみんなに受入れられるために他のみんなみたいになろうとしません。逆に、自分に忠実であり、「ありのままの自分」でいることが正しいことを知ります。

お近くの図書館に行って、これらの物語を読んでみてください！（または、ご購入ください。きっと何度も繰り返し読みたくなるでしょうから！）

お願い - 芸術活動評価キャンペーン

私たちの活動を評価して下さる方は、世界中の人に知らせてください！私たちがコミュニティを

よりよくするための活動をサポートする素晴らしい機会があります。GreatNonprofits はアマゾンやTripAdvisor のようなウェブサイトで、アメリカ全国でトップレベルのNPO を認識するためのキャンペーンを行っています。

ぜひ、評論を書き込んでいただいて私たちのキャンペーンへの参加を可能にしてください！ 献金やボランティア活動の可能性のある人は全てのレビューを見ることが出来ます。簡単で、3 分程しかかかりません。Go to Great NonProfits でご協力をお願い致します。

キャンペーンのリストから “Arts 2011” を選択して、レビューを書き込んでください。

地域での知名度を高めるためにも、皆様のご協力をお願い致します。

人生ではレモンの（苦い）経験もある

皆さんはレモンがお好きですか？レモンは酸っぱくて、苦い時もあり、まるで人生のようです。時には苦い思いをするようなことや将来を暗く（酸っぱく）感じさせるようなことが起きるものです。しかし、砂糖かハチミツを少々と水を加えると、みんなが大好きなレモネードになります。人生では、愛を少々と（人生に対する）望ましい姿勢を加えると、私たちのレモン、つまり問題はそれから何かを学ぶことが出来る経験になります。全ては、私たちのものの見方です。

寄付者の皆様への感謝の言葉

寄付者の皆様へ心からお礼を申し上げます。皆様の寛大な寄付により、子供達が人格教育、暴力防止、平和構築等のプログラムを体験することが出来ます。皆様の寄付金は、子供や学校が、自尊心を高め、より良い人間関係を築き、いじめを防止するためのフィールドトリップに参加するための資金援助に使われます。皆さんは平和の種を植える手助けをしているのです。

最も最近スポンサーになられた Exodus Health Center（ジョージア州ケネソー）のデイヴィッド・ジョッカーズ先生に特にお礼を申し上げます。スポンサーには様々なレベルがあります。スポンサーについてもっと詳しくお知りになりたい方は、お問い合わせください。

スポンサーへのサポートをお願いします！

Tanner Graphics (Acworth) のテリー・タナー様
Signs & More (Cartersville) のビル・スワンソン様
Macy Wong Illustrations (Netherlands & Dreamstine) のメイシー・ワン様
My Handyman (Kennesaw) のスティーブ・ケイン様
Discount Tire (Acworth) のロン・スタッツマン様

平和のパートナーの皆様へ

1 月は新しい年の始まりで、目標を定めて自己を向上させる良い機会を与えてくれます。時には、無理だ！と思うかも知れません。主人と私は健康的な生活を送る努力をすることにしました。以前も試してみたのですが、その時はサポートシステムがなかったため上手く行きませんでした。今年は、たくさんの方からのサポートや応援があり、それはどんなプロジェクトでも成功させるには必要なものです。私たちは個人の問題のあるところを認識して、私たちの生活のレモンの部分にハチミツを少し加え、レモネードにしようと思います。マーティン・ルーサー・キング・ジュニア牧師が私たちが平和と調和の内で共生することを望んだように、どのような目的でも達成するにはたくさんの人のサポートと態度の変換が必要です。

2 月が近づいて来て、バレンタインデーとハートと愛を心にもたらししてくれます。健康に気をつけることによって、心を強くし、これから何年も家族や友達のことを思うことが出来ます。そして、3 月は春の希望と暖かい気温と新しい成長の機会を与えてくれます。各月は私たちがそれぞれの人生でどんなに恵まれているかを再確認させ、また、どうすれば私たち自身が他の人への恵みになれるか考える新しい機会を与えてくれます。私たちは、プログラムに参加する子供達のためにももっと健康になりたいと思います。自分がそれをしなければ、教えることは出来ません。だから、皆さんのお子さん達やご家族に「完全性」（人生に必要な全てのもの）のメッセージを伝え続けるためにもっと強くなりたいです。皆さんも健康、身体、心、そして精神を鍛え、人生に平和をもたらす努力をしてみたいでしょうか。

平和に関する芸術作品 : Kevin Mckelvy: USA

アメリカのケビン・マッケルヴィ氏の3次元の芸術作品をウェブサイトのOne Lifeでご覧ください。

あら不思議！という作品が載っています。

www.splittingimage.com

パレスチナとイスラエルの平和のために

暴力で肉親を失った家族が1995年に集まって、交流を始め和解のために活動をしています。

対立ばかり報道されていますが、平和と和解の努力を次のウェブサイトで見ることができます。

<http://www.theparentcircle.org> (英文です。)

市民ネットワークニュース

「平和のための博物館・市民ネットワーク」第
10回全国交流会報告

山梨平和ミュージアム 浅川 保

2010年12月4日(土)午後2時～5時30分
と5日(日)午前9時～12時の日程で、甲府市の
山梨県男女共同参画推進センターで、第10回全国
交流会が開催されました。参加者は1日目40名(全
国16名、県内24名)、2日目17名でした。

1日目は、運営委員の第5福竜丸展示館の安田和
也さんと東京大空襲・戦災資料センターの梶慶一郎
さんの司会で、1 若い世代への継承、2 展示・
研究など内容の充実、3 博物館と地域・市民との
連携の3つのテーマを中心に報告、討論をしました。

最初に事務局の山辺昌彦さんより、会計・事業報
告と新体制(事務局 ピースあいち 編集委員 山
根和代 山辺昌彦 安斎育郎 運営委員 浅川保
池田恵理子 梶慶一郎 宮原大輔 安田和也 山辺
昌彦)が提案され、了承されました。ついで、山根
和代さんより、平和のための博物館国際ネットへの
加入のよびかけがありました。

次に、安田和也さんから、第5福竜丸展示館の実
例もまじえて、3つのテーマに関わって問題提起が
ありました。特別報告は、山梨平和ミュージアムの
浅川保さんの「平和の港3周年にあたって」、ピー
スあいちの宮原大輔さんの「4年目のピースあいち」、
愛知教育大の南守夫さんの「科学技術の名による戦
争博物館の復活」の3つでした。他に、アウシュビ
ッツ平和博物館の塚田一敏さん、小淵真理さんから
の報告と、鈴鹿市の戦跡を保存・平和利用する市民
の会の竹内宏行さんより、格納庫保存の取り組みの
報告がありました。

1日目終了後、宿舎のクラウンパレスホテルで、
19名が参加し、懇親会が行われました。ピースあ
いちの野間館長の乾杯の音頭で、全員が発言し、交
流を深めました。

2日目は、梶慶一郎さんの司会により、わだつみの
こえ記念館の高橋武智さんと丸木美術館の小寺隆幸
さんらの報告をもとに討論が行われました。2日間
を通して討論では、魅力的な展示・活動をどうやっ
てつくるか、平和の力の育成、戦争体験の継承をど
う進めるかなどが出されました。また、交流会の前
後に、全国からの参加者を中心に、山梨平和ミュー
ジウム-石橋湛山記念館-の見学も行われました。

事前に、山梨日日新聞、朝日新聞、NHKなど地
元メディアの紹介・案内があったため、県内の一般
参加者も多くあり、のべの参加者は57名でした。
また、12月5日付赤旗全国版、6日付山梨日日新
聞でも交流会の様子が報じられました。

平和のための博物館・市民ネットワーク会計報

告

(2009年12月～2010年11月)

2010年12月4日

山辺昌彦

●会計報告

収入

会費	141000円
カンパ	2000円
繰越	115197円
計	258197円

支出

送料	140845円
印刷・ラベル	40617円
繰越	76735円
計	258197円

●内訳

会費

2008年度	3人	6000円
2009年度	19人	38000円
2009年度半分	1人	1000円
2010年度	42人	84000円
2011年度	2人	4000円
2012年度	1人	2000円
2013年度	1人	2000円
2014年度	1人	2000円
2015年度	1人	2000円
計	71人	141000円

印刷費

印刷費日文24号	6396円
印刷費英文22号	6240円
印刷費日文25号	4070円
印刷費英文23号	6200円
紙代日文24号	2408円
紙代英文22号	2990円
紙代日文25号	2400円
紙代英文23号	2990円
封筒印刷費	570円
封筒代	3753円
ラベル	2600円
計	40617円

送料

日文24号	15910円
英文22号	42070円
平和博冊子	25625円
日文25号	15880円
英文23号	41360円
計	140845円

繰越	
郵便振替	6 8 0 3 0 円
現金	8 7 0 5 円
計	7 6 7 3 5 円

●会員

2015年まで納付	1人
2014年まで納付	1人
2013年まで納付	1人
2011年まで納付	2人
2010年まで納付	43人
2009年まで納付	25人
2008年まで納付	5人
2007年まで納付	2人
計	80人
入会	6人
退会	9人

●事業報告

ニュースの発行

日文24号	2010年 2月
英文22号	2010年 2月
日文25号	2010年10月
英文23号	2010年11月

世界における平和のための博物館の刊行

2010年2月28日

第10回全国交流会の開催

2010年12月4～5日

●新体制

事務局長	宮原大輔
事務局	ピースあいち
編集委員	山根和代・山辺昌彦・安斎育郎
運営委員	浅川保・池田恵理子・梶慶一郎・ 宮原大輔・安田和也・山辺昌彦

なお、事務局は東京大空襲・戦災資料センターからピースあいちに変わりますが、ミュージズはしばらくは東京大空襲・戦災資料センターのホームページに掲載します。また、museMLの管理もしばらく東京大空襲・戦災資料センターがおこないます。

●事業予定

ニュースの編集・発行
日文2回・英文2回

第11回全国交流会の開催

わだつみのこえ記念館からの報告

館長 高橋武智

若い世代への働きかけについては、平和学習を進める高校生に加え、とくに戦没学生と同年齢にあたる大学生に来館してもらいたい。その数は増加しているが、最近の傾向として、大学生グループがみずから組織して、展示を見るだけでなく、体験者の話を聞くことも含め、活動や交流の場として館を利用する機会がふえたのは喜ばしい。ひめゆりの方のお話を聞いた「日韓ユース・キャンプ」の例や、有志団体「ブルーバード」が大学院生たちを誘い、或る一人の戦没学生の個人史を研究・実演することを通じて、自分たちの生活と身近な存在であることを確認しようとした例など。

他の博物館とのかかわりについては、当館のある東京・文京区が組織する「文京ミュージズ・ネット」に加入した。区の発信力が強力で、来館者が確実に増えている。

展示内容については、戦没朝鮮人学生のコーナーが、韓国内の事情の好転があったうえに、韓国人研究者との交流を深めることを通じ、より充実したものになる可能性が出て来ている。

来年12月に開館5周年を迎えるにあたり、以上の努力を総合して、館としては規模の大きい企画展に取り組むつもりである。

Tel&Fax:03-3815-8571

<http://www.wadatsuminokoe.org>

安斎育郎名誉館長、第22回久保医療文化賞受賞

安斎育郎氏（国際平和ミュージアム名誉館長）が第22回久保医療文化賞を受賞されました。次のような内容です。

立命館大学国際平和ミュージアムは 大学が果たすべき社会的役割の一環として戦争史の真実を掘り起こし また 平和創造の主体者を育むことをめざして設立されました

あなたは その創設をすすめるとともに二代目館長として十数年 その後 名誉館長として現在なお広い視野から日本の戦争犯罪をはじめ世界のあらゆる戦争と平和についての検証をおこない 戦争こそが最大の環境破壊であり最大の暴力であることを提示してきました また 世界平和博物館会議の牽引役となるなど その業績は国際社会においても高く評価されております

よって 今日までのご苦勞とご活躍をたたえ その業績を顕彰し ここに久保医療文化賞を贈呈いたします

久保医療文化賞は、ポリオ(小児まひ)の撲滅活動などに尽力した新日本医師会会長の久保全雄(くぼ・まさお)氏が設立した久保医療文化研究所による授賞制度で、医療分野などで活躍する個人を表彰するもの。「医療」のほか、「環境」「平和」分野も対象とされている。久保氏は1911年生まれで、戦後新日本医師協会に参加して大衆の医療運動をすすめる、1980年会長に就任。母親運動の組織化やソ連からのポリオ生ワクチン緊急輸入の実現など、常に大衆的な視点から医療の問題に取り組んだ。著作に『生きる条件—健康・環境破壊の変遷とその認識』(旬報社)、シリーズ『くらしと健康』(汐文社)などがある。

(これまでの受賞者(一部))

◆原田正純さん=熊本学園大学教授の原田正純さんが第14回「久保医療文化賞」を受賞した。長年の水俣病研究を通じての患者救済の功績と本年度、わが国の大学で初めて正規の授業として開設した「水俣学」の創設を評価されたもの。

◆藤野紘さん=水俣病患者とともに、現地水俣で水俣診療所、水俣協立病院を作り、1万人を超える水俣病患者を診断するなど精力的な活動を行ってきた。桂島検診を行い、「有機水銀濃厚汚染の事実と四肢末梢性感覚障害で水俣病」とする水俣病の病像を明らかにしてきた。

◆畑 明郎さん=環境政策論の大阪市立大学教授。重金属汚染、金属産業の公害、土壌・地下水汚染、科学社会学・科学技術史、環境影響評価・環境政策などについての調査研究。中国や韓国の環境問題にも取り組む。日本環境学会の会長など多くの研究会や学会の要職を歴任。

◆太田昌秀さん=沖縄の政治家、社会学者。元沖縄県知事、元社会民主党参議院議員。琉球大学名誉教授。大田総合平和研究所主宰。「沖縄からのメッセージ」事業などで沖縄問題を全国に訴えたことなどが評価された。

◆片平洸彦さん=東京大学大学院修了、同年、東京医科歯科大学難治疾患研究所臨床薬理学部門助手、1990年同研究所情報医学研究部門助教授、2001年東洋大学社会学部教授。薬害の被害者支援と根絶、炎症性腸疾患(IBD)と脂質栄養の関係、犯罪と社会保障・社会福祉の関係について高い業績を挙げた。

◆結純子さん=早稲田大学卒。俳優小劇場、劇団三十人会を経て、74年松橋勇蔵と劇団を結成。79年よ

り「劇団ほかい人群」として全国巡回公演。ひとり芝居『人生一発勝負』で99年文化庁芸術祭優秀賞。石牟礼道子の『道行きのにし』、高村光太郎の『智恵子』、宮澤賢治の『祭りの晩』、岡本かの子の『太郎への手紙』などを各地で公演。

「平和の港」3周年にあたって

山梨平和ミュージアム理事長 浅川保

2007年5月に山梨平和ミュージアム(平和の港、または略称・YPM)が開館・オープンしてから3年余が過ぎた。2010年6月には、作家・井出孫六氏を迎えての3周年記念行事が盛況裡に行われ、11月には、入館者も6,000人を越えた。民立民営の「平和の港」の3年余をふり返り、地域平和ミュージアムの意義・の課題を考えたい。

まず、1階の「戦争と平和」の展示だが、開館時の企画展示は「甲府空襲の実相」だった。甲府空襲を体験した諸星廣夫氏とB29飛行士ローランド・ポール氏との対話から明らかになった甲府空襲の実相、それに、B29の実物模型と甲府空襲の犠牲者1127名全員のパネル、体験者の証言などで甲府空襲を立体的に再現した。また、「戦略爆撃の系譜」として、ドイツが行ったゲルニカ爆撃、日本が行った重慶爆撃…ヒロシマ・ナガサキへの原爆投下など世界の戦争と平和の歴史も展示した。

2007年11月からの企画展「甲府連隊の軌跡」では、地元の甲府連隊の歴史を通して15年戦争の実相に迫ろうと、49連隊の開設から満州への移駐、149連隊の無言の凱旋、49連隊のレイテ戦の悲劇などを展示した。日中戦争での加害の証言とともに被害と加害の重層性の視点も重視した。

2008年6月からは、企画展「戦時下の暮らし」として、戦争の真実が知らされなかった(国民を駆り立てた新聞など)、奪われた思想の自由、学校教育と子どもたちの暮らし(実物教科書の展示など)、学徒労働員、朝鮮人労働者の動員などを展示した。

現在では、これまでの3回の企画展の内容を集約・コンパクト化し、全体を通して、地域から世界の戦争と平和を総合的に考える展示になっている。

2010年2月から取り組んだ企画展「戦場の記憶・記録展」では、地域・市民から提供の資料・体験記、私たちが作成したパネルをもとに、日中戦争、アジア太平洋戦争の実態・実相に迫った。さらに、県民によびかけて戦争体験記を募集し、8月初め、『伝えたいあの戦争II』を発刊した。

10月10日から、「沖縄戦とひめゆり学徒隊、山梨と沖縄戦」を中心に、企画展「沖縄戦を考える」を実施、現在、好評、開催中である。

2階の常設展示「石橋湛山の生涯と思想」は、湛山が中学時代に『校友会雑誌』に書き残した文章をそ

のまま紹介するなど青少年期を充実して、2009年2月にリニューアルオープン、「全国初の石橋湛山記念館」として、県外からの見学、問い合わせも増えている。

全体の構成は、1 山梨での幼年～青年時代 2 平和・民権・自由主義を主張した東洋経済新報社時代 3 戦後の政治家としての湛山 4 湛山の思想の現代的意義 5 県内に残るモニュメント・実物資料 となっている。

2007年11月、岡山大学教授の姜克実氏、石橋湛山記念財団評議員の山口正氏を迎えて、開館記念シンポジウム「いま石橋湛山に学ぶもの」をびゅあ総合で開催した。2009年10月には、国会図書館の協力を得て、石橋湛山文書展を、また、11月には、松尾尊口京大名誉教授らを講師に第2回石橋湛山シンポジウムを実施した。

2010年の6月には開館3周年記念として、2階の常設展示などをまとめたブックレット『石橋湛山の生涯と思想』を発刊した。7月には、湛山の主治医だった、98歳の日野原重明氏がYPMを訪れた。

YPM活動の特長であり、重点の1つが、市民参加型の運営である。国立民営のYPMが存続し、発展していくカギは市民参加型に徹することではないだろうか。

展示だけにとどまらず、戦争体験の証言・平和の取り組み等を通して、戦争の記録・記憶を継承し、近現代史の学習を深めようと、毎月の企画行事に取り組んできた。毎回30～50名が参加、盛況裡に行われ、文字通り「平和の港」のメイン行事として定着しつつある。そして、行事を通しての新たな発見、出会い、交流が広がっている。新たな話題性のある報告者を発掘すること、提案した担当者(理事)が責任を持って企画・運営をすることを柱に進めている。

展示や企画行事を充実させ、運営を確かなものにするためには、他の平和博物館・ミュージアムに学び、交流することも必要不可欠である。

2008年6月、開館1周年記念講演には、立命館大国際平和ミュージアム名誉館長の安齋育郎氏を招いた。安齋氏は「地域から平和の創造をー平和博物館を通して平和国際貢献をー」と題して、戦争のない状態にとどまらない新しい平和の定義を提起され、被害と加害の両面、そして和解と共同の精神を培う展示の重要性、地域平和ミュージアムの意義を強調された。

第6回国際平和博物館会議が、2008年10月、京都の立命館大学をメイン会場に開かれ、YPMから春日館長ら6名が参加、「世界の平和博物館の今」について直接学ぶことができた。2009年6月の2周年記念講演には、東京大空襲・戦災資料センター館長の早乙女勝元氏を講師に招いた。今後とも、

国内・海外の平和博物館との学び合い、交流を重視していきたい。

YPMの最大の課題は、中・高・大学生など若者の見学者をどう広げ、体験の継承を図るかだ。戦争を体験した世代は徐々に減り、体験の継承は年々難しくなっている。また、21世紀の国際社会を生きる上で日本を取りまく近現代史に無知では説得力ある発言、関係作りは望めない。日本だけでなく、中国・韓国などアジアや国際的な視点をふまえた総合的な戦争認識の育成が重要だ。その意味からもYPMの様な地域平和ミュージアムの果たす役割は大きい。

また、戦争体験者(語り部)がいなくなる近未来が近づく中、次の世代に戦争をどう伝えるか、人から物へとともに、語り部から語り継ぎ部への継承も大きな課題となってきている。

山梨の平和博物館と朝鮮

鮎澤 譲 (山梨平和ミュージアム理事)

「伝えたい戦争の記憶・記録を」という広範な思いが結集し、2007年5月に山梨県甲府市に「山梨平和ミュージアム」が開館した。山梨平和ミュージアムでは、甲府空襲、甲府連隊の歴史、戦時下の暮らしなどを展示している。また、毎月、戦争体験者の証言を聞く会や戦争に関する講演会などを実施している。ミュージアムの展示の中

で、戦争中の山梨県での朝鮮人労働者の状況を展示している。戦争中、山梨県内には1万人以上の朝鮮人が在住していた。静岡県蒲原の水力発電所のための身延の導水トンネル工事、韮崎の七里岩地下壕の工事、白根の御勅使河原飛行場の工事などに、朝鮮人労働者が動員された。過酷で危険の多い作業の多くは、朝鮮人労働者が担った。地域における戦争での加害の事実を県民に伝えるという視点で展示している。山梨県北杜市高根町の出身の浅川伯教・巧兄弟は、二次大戦前に朝鮮半島に渡り、朝鮮の人々の立場で朝鮮をとらえることのできた数少ない日本人だった。浅川伯教・巧兄弟資料館は、朝鮮工芸に魅せられた浅川兄弟の人と業績を紹介し、日韓友好親善の情報発信地として、北杜市に2001年に開館された。資料館には、兄弟の足跡がわかる年譜やビデオ解説、ジオラマとともに、伯教の残した書や絵画、巧の日記などが展示されている。

高知県太平洋核実験被災支援センター

6月下旬愛媛県で放映されました南海放送「わしも死の海におった」(2004年「地方の映像賞」受賞した同名ドキュメンタリーの最新・再編集版)がDVDに記録できました。7年間のビキニ調査の集大成が

57分におさめられています。マグロ船被災漁民と遺族の声、政府調査船「俊こつ丸」の大气・海水・魚の放射能汚染実態、被災貨物船「弥彦丸」乗組員の深刻な健康状態などが貴重な映像を活用して記録されています。そして、アメリカ原子力委員会の「1954, 3, 1~5, 14」まで6回の核実験フォーラムアウト記録には「死の灰」がアメリカ本土にも繰り返し大量に降っていることが確認され、しかも、アメリカ国民に知らされていないようです。太平洋核実験が核実験国・アメリカを含む国際的被災をもたらし、北半球を中心に地球規模の環境汚染をもたらしたことを立証する記録です。

この映像をご覧になりたい方は、ご連絡下さい。南海放送の許可をいただき、DVDを作製しました。第五福竜丸を含め、延1000隻をこえるビキニ核実験被災船の実態解明は核廃絶への大きな一歩になると思い、ご協力をよびかけます。

¥1000 {税込み} 郵送料¥500

〒788-0785

高知県宿毛市山奈町芳奈2779-2

高知県太平洋核実験被災支援センター事務局 山下 正寿

Tel&Fax:0880-66-1763

Eメール masatosi.sky@orange.zero.jp

立命館大学国際平和ミュージアムの活動報告

立命館大学国際平和ミュージアム

教育文化事業課 鳥井真木

2010年、立命館学園は創始140年・学園創立110周年を迎えました。そして「わだつみ像」が生誕60年「還暦」を迎え、また10カ国・地域、11大学の学長・大学代表が集う「アジア太平洋・学長平和フォーラム」などの記念事業が行われました。例年の特別展・ミニ企画展や博学連携の企画など、多彩に数多くの事業に取り組みました。2010年の主な活動概要は、次のとおりです。

【わだつみ像生誕60年記念：「戦争・対立の時代」から、「平和・共成の時代」へ】

立命館大学国際平和ミュージアムの使命は、平和のための博物館として、世代を超えた社会的記憶を伝え、平和を創造するために役立て、「私たち自身に何が出来るか」を考え、実践することだと考え、次の取り組みを行いました。

1. 「わだつみ不戦の誓い」鼎談

11月28日(日)パネリスト 中村はるね氏(産婦人科医師) 東ちづる氏(女優) 安齋育郎名誉館長

『きけわだつみのこえ』の原資料を持つ「わだつみ平和文庫」や「ドイツ国際平和村」の活動を紹介する鼎談を実施しました。

2. 映画上映と対談

12月4日(土)初代館長・加藤周一さんのラストメッセージを伝えるドキュメンタリー映画「しかしそれだけではない。加藤周一幽霊と語る」上映、桜井均氏(本作製作者) 安齋育郎名誉館長による対談を開催しました。

3. 「わだつみ不戦の誓い」展 11月27日~12月18日

「わだつみ平和文庫」からの資料をお借りし、本学が所蔵するわだつみ像関係資料を展示しました。

4. 第57回不戦のつどいが、12月8日にわだつみ像前集会、12月6日に嵐のなかの母子像前集会が開催されました。

【アジア太平洋・学長平和フォーラム~立命館大学国際平和ミュージアムの理念と活動を踏まえて】が、12月11日、10カ国・地域、11大学の学長・大学代表、多くの学生、教職員、市民を含め、延べ約500名の参加を得、熱気のある真摯な問題提起、討論、意見交換が行われました。第1部 基調講演 明石康氏(元国連事務次長、本学客員教授) 問題提起：川口清史立命館大学学長「国際平和構築のために、大学は何が出来るか？」があり、討議の締めくくりとして「アジア太平洋学長平和フォーラム共同声明」が発表されました。

第2部 パネルディスカッション「アジア太平洋の平和と持続可能な発展」が行われ、終日熱心に討論、意見交換がありました。

アジア太平洋学長平和フォーラム共同声明

Asia Pacific University Presidents' Peace Forum
Joint Communiqué

2010年12月11日 立命館大学において開催されたアジア太平洋学長平和フォーラムを受け、次のとおり共同声明を発表する。

- 1.国際社会の「核兵器廃絶」に向けた取り組みに賛同し、教育・研究機関として「国際平和構築と持続可能な発展」に貢献する。
- 2.立命館憲章の精神と理念、および国際平和ミュージアムの社会的、教育的意義を理解し、次世代を担う人材教育に活かしていく。
- 3.異なる学問領域、学問と現実の垣根を越えた相互理解がより良い人類の未来社会の具現に不可欠であるという認識を共有し、知識と実践の連携を促進するよう努力する。
- 4.本フォーラムに参加した大学との連携を基礎に、大学間で学生交流を活発化させ、異文化を理解し、国際的視野と知見を広げ、国際的な課題解決に取り組める「グローバル・シチズンシップを備えたリーダー」を養成する。

5.国連を始めとする国際機関と連携し、「平和構築と持続可能な開発」のための研究活動や人材育成に積極的に参加する。

参加大学：①アメリカン大学（アメリカ合衆国）②ハノイ工科大学（ベトナム社会主義共和国）③慶熙大学（大韓民国）④マコーリー大学（オーストラリア連邦）⑤国立台湾師範大学（台湾）⑥北京大学（中華人民共和国）⑦タマサート大学（タイ王国）⑧ブリティッシュ・コロンビア大学（カナダ）⑨インドネシア大学（インドネシア共和国）⑩立命館アジア太平洋大学（日本）⑪立命館大学（日本）

【常設展示】

5月23日、2階の平和創造展示室に「暴力に抗して、平和を創る」展示コーナーを開設し、除幕式を行いました。展示は暴力のない、恒久平和を願って「平和のために努力し、暴力に倒れた人々」を紹介し、伊藤一長前長崎市長の遺品を展示しました。

【特別展】

1. 「カレル・チャペックの世界—文芸を通じた平和と人間性の追求」が、6月15日～7月31日まで開催されました。チェコを代表する作家カレル・チャペック（1890-1938）は、文明批評家、SF作家、園芸家、愛犬家などとしての多彩な活躍で知られています。今展では、チャペックの歩みを紹介するとともに、彼の遺品や、チャペックとともに活動し、イラストや装丁作家としても活躍した兄、ヨゼフ・チャペックによる装丁本、関連資料などをあわせて展示し、カレル・チャペックの世界を紹介しました。

「ロボット」という造語を作り出したといわれているチャペックに関連して、記念講演会「ロボットの科学と技術」（講演：川村貞夫本学教授）と、夏休み親子企画「ムラタセイサクくん、セイコちゃんの実演」が行われ、ロボットの平和利用について、紹介がありました。

2. 「世界報道写真展 2010」が、9月22日～10月16日国際平和ミュージアム、10月19日～11月7日立命館アジア太平洋大学、11月10日～23日立命館大学びわこ・くさつキャンパスの3会場で開催され、約13,000人の参観者がありました。

今回のグランプリに選ばれたのは、イタリア人カメラマンのピエトロ・マストルツォが2009年6月、大統領選の不正への抗議が国中で高まるイランで撮影した1枚でした。日中の抗議デモでは収まらず、日没後に建物の屋上から抗議の叫びをあげる一人の女性をとらえたこの写真は、「何か巨大な物語が始まろうとしていることを表している。視覚的にも感情的にも強く訴えかける1枚」との高い評価を受けました。

公開記念講演として、京都では「世界の紛争と貧

困を撮る」國森康弘氏と、滋賀では「戦争は続いている～イラクの戦後と沖縄基地問題～」森住卓氏の講演会を開催しました。写真展、講演会ともに、参観者に深い衝撃と感動を与えた写真展であったと思います。

3. 「ピース☆コレクション～資料でつづる平和ミュージアムの軌跡」が10月26日～12月18日まで開催されました。国際平和ミュージアムには、4万点近い収蔵品がありますが、常設展示されているのはほんの数点です。この展覧会では、普段は展示できていない資料や、国際平和ミュージアムの活動について、平和についての資料とはどんなものなのかを紹介しました。

関連企画として、「どう使う？平和ミュージアム」と題して、社会科教育専門の角田将士先生（本学准教授）と、戦没画学生慰霊美術館「無言館」を利用した授業実践に取り組む美術教諭の口松智行先生（横浜国立大学附属鎌倉小学校）を招き、それぞれの教科で博物館や美術館を利用して平和について学ぶ授業を、どのように展開することができるのか、実践をふまえてお話をいただきました。

以下、展示名と期間のみの紹介です。

【ミニ企画展】

第55回：「フィリッピン写真展～BePhilippine!!」2010年4月6日～25日

第56回：「ミュージアムこの1てん：児童愛護週間ポスター」5月2日～23日

第57回：「ラヂオ体操の歴史」7月17日～8月29日

第58回：「明日も喋ろうー 言論への暴力に抗して」9月14日～10月15日 朝日新聞大阪本社

第59回：「オキナワとヒロシマを学ぶー 学生が歩いて学び、考えたこと」10月10日～15日 広島経済大学

第60回：第4回立命館附属校平和教育実践展示 10月17日～12月23日

第61回：廃棄された公文書からみた徴兵の実態—大正年間友禅図案裏打ち文書の発見 2011年1月13日～30日

第62回：資料で見る京都の観光と絵葉書 2月13日～3月31日

【特別展示】

1. 「ヒロシマ・ナガサキ原爆写真ポスター展」4月7日～5月26日

2. ホームカミングデー関係企画：パネル展「平和・文化・スポーツ創造に翔ば たく立命館人」5月29日～6月12日

3. 無言館/京都館・いのちの画室開設5周年記念：戦没画学生「戦場からの絵葉書」展5月26日～7月7日

6月13日 対談「戦場からの絵葉書によせて」窪島誠一郎氏、高杉巴彦館長

4. 「第30回平和のための京都の戦争展」8月2日～7日

【国際平和人権セミナー～平和の諸相を見る】

第2回：ドイツにおける紛争解決と平和構築 講演：フォルカー・シュタンツェル氏（駐日ドイツ連邦共和国大使）4月22日

第3回：宜野湾市長として、米軍再編と私たちの暮らしを振り返る 講演：伊波洋一氏（宜野湾市長）5月29日

第4回：記憶と戦争：イスラエルと日本における戦後史比較 講演：ラン・ツウインゲンバーグ氏（ニューヨーク市立大学、国際交流基金フェロー）6月16日

【映画上映会】

第17回：「ひろしま」（1953年 関川秀雄監督、岡田英次、月丘夢路主演）活動紹介・作品解説：小林一平氏（映画プロデューサー）、安齋育郎名誉館長 10月15日

【名誉館長・館長声明】

1. オバマ政権下の核実験について－「核兵器のない世界」への前進を 10月21日

2. 朝鮮半島の南北衝突についての緊急声明 11月24日

【その他】

1. 第17回日本平和博物館会議が、11月10日～11日、神奈川県立地球市民プラザを会場として開催されました。現在、加盟館は10館です。当館からは、相互貸出可能な展示資料リストと、ロゴマークの作成についての取りまとめを行いました。

2. NGO ワークショップの開催 大学の教養科目「立命館で平和を学ぶ」に協力。サービスラーニングの場所として国際平和ミュージアムを選択した大学生が、2階平和創造展示室で紹介するNGO団体と協力してワークショップ開催に取り組みました。

第1回：7月18日 アムネスティ・インターナショナル日本

第2回：12月18日 オルター・トレード・ジャパン

平和資料館・草の家

事務局員 中内愛

2010年10月3日、平和講座「アフガンの今を知る」が開かれました。（平和を考える市民セミナー共催）講師の西谷文和さん（フリージャーナリス

ト、イラクの子どもを救う会代表）が、アフガン・イラクの現地取材の様子や、DVD「GOBAKU」の映像等を紹介しながら、メディアの向こう側、私たちの目や耳に直接入ってこないところでいったい何が起きているのかについて話しました。現状に対して私たちに何ができるか、等の質疑応答も活発に行われました。

10月28日に草の家ブックレット12『今伝える中江兆民の思想』、11月1日に証言・調査報告集『高知の戦争』第10号が発行されました。

11月14日には、草の家創立21周年記念の講演会と懇親会を開きました。講演された韓国・平和博物館活動家の金英丸（キム・ヨンファン）さんは、2002年から2006年まで草の家の事務局長として、高知を拠点に平和運動を学びながら活動されていました。

“高知のヨン様”こと金さんの人気は健在で、県内各地から120人余の参加者が集い、平和のための東アジア市民連帯を生涯の課題にされている金さんの話に耳を傾けました。その後、12月末に発行した「草の家だより109号」に寄せられた金さんの原稿には「先に銃を降ろすこと、それが遅くとももっとも確実な平和への道です」と綴られていました。

12月15日には、「朝鮮戦争の記憶、真実から今回の延坪島砲撃事件を語る」と題して、韓国グリーン코리아で活動されている徐載哲（ソ・ゼチョル）さんを講師に迎え講演会が開かれました。（日朝協会高知支部、平和な未来を考える高知の会共催）

その他、市内の小中学校、県内外の団体グループが訪れ、岡村正弘館長の高知空襲体験の語り部学習会や、市内に残る空襲の傷跡や反戦詩人・榎村浩の詩碑等を巡るフィールドワークが行われました。

岡まさはる記念長崎平和資料館

理事長 高實康稔

2010年7月～12月の主な活動について報告します。

○7月19日：第6回「岡正治さんに学ぶ会」。長崎労働金庫元理事長の矢嶋良一さんが岡先生の思い出と当館の設立資金融資に至る経緯を関連づけて話され、盛会であった。

○7月24日：蘇智良教授（上海師範大学）の講演会。日本軍「慰安婦」は中国人も20万人に及ぶという研究結果と援護活動の苦難を詳しく語られ、参加者に衝撃を与えた。

○8月13～19日：第10次岡まさはる記念長崎平和資料館友好訪中団が南京を訪問。大学生を派遣する「希望の翼」（第8回）には応募者がなく、残念であった。

○9月13日：良心的兵役拒否のドイツ青年ユリアン・ザンダーさんが来崎。5人目で、当館での代替

勤務は来年8月4日まで。兵役制度の廃止に伴い、彼が最後となる。

○9月18日：当館主催「もう一度学ぼう！日本の近現代史」の第1回。新海智広理事が「すれちがいの愛憎～『韓国併合』を巡る深い溝」と題して講義。市民約50名の受講。

○10月1～11日：当館設立15周年記念事業として「『韓国併合』100年写真展」（『韓国併合』100年市民ネットワーク提供）を開催。期間中408名が見学。

○10月2日：同上記念事業として辛淑玉さんの講演会「日韓併合100年と日本社会」を実施。在日朝鮮人の戦前戦後をあらゆる角度から語られた講演の全部を機関紙「西坂だより」特別号（11月23日発行）に収録しているので、是非一読願いたい。

○10月9日：「もう一度学ぼう！日本の近現代史」の第2回、奥山忍理事が「明治維新～尊王攘夷思想・倒幕運動・近代天皇制」と題して講義。

○11月13日：「もう一度学ぼう！日本の近現代史」の第3回、国武雅子理事が「近代日本の国民像～明治憲法体制の成立」と題して講義。

○11月23日：第8回年次総会。新年度の活動方針と収支予算を承認し、新理事を選出。

○12月11日：「もう一度学ぼう！日本の近現代史」の第4回、葛西よう子会員が「大日本帝国は一等国になったのか」と題して講義。

○12月12日：第10回「南京大虐殺生存者長崎証言集会」。程王氏さん（83歳）の証言と謝紅霞さん（南京大虐殺記念館職員）の解説。程さんは南京陥落前に郊外の村で両親と兄を殺されたと証言。南京大虐殺を否定する会場からの意見に理事長が反論。

Tel&Fax:095-820-5600

<http://www.d3.dion.ne.jp/~okakinen>

ひめゆり平和祈念資料館

2010年4月～12月、初の県外巡回展「ひめゆり平和への祈り—沖縄戦から65年」（主催：ひめゆり平和祈念資料館・朝日新聞社・各開催館）が5府県の博物館で開催されました。この展示会は、戦後65年の年を戦争体験者が自ら発信できる最後の機会と位置づけ、ひめゆりが体験した戦争の悲惨さと平和の大切さを県外の多くの方々を知っていただくために企画しました。戦場跡から見つかった一高女の校章や砲弾の破片など、ひめゆりの沖縄戦を伝える資料90点を展示。今回は、これまであまり語られてこなかった「生き残った者の思い」や「伝えることへの意思」にもスポットをあてました。長い間語れなかった戦争体験を、なぜ今伝えようとしているのかを明らかにし、次世代へ平和への思いを託すため

す。さらに、元ひめゆり学徒生存者による講演会を開催し、直接戦争体験を伝え、来場者と交流することができました。会場には予想以上に幅広い年代の方々を訪れ、全会場合わせて46,218人が来場し、多くの反響が寄せられました。

高浜市やきもの里かわら美術館（会期4月3日～5月16日）

長野県立歴史館（会期5月29日～7月11日）

四日市市立博物館（会期7月21日～9月5日）

水戸市立博物館（会期9月19日～10月24日）

大阪人権博物館（会期11月16日～12月26日）

2010年6月23日～2011年1月3日まで当館第6展示室にて「ひめゆりアニメ・プロジェクト」公募作品展を開催しました。「ひめゆりアニメ・プロジェクト」は、学徒の戦争体験や思いを小学生にも理解できるアニメーションにと2006年より発足し、制作に取り組んできました。制作にあたっては、学徒生存者の思いを織り込むことを重視し、既存のアニメーション作家ではなく、共に制作に参加して下さる原作者を公募することとなりました。

2008年1月に公募し、半年間で県内外より、個人・団体合わせて20組、延べ191点の作品のご応募がありました。応募作品の中には、学徒の証言をもとに描かれたものだけでなく、独自の世界観でアニメストーリーを考えたものなど様々な作品が集まりました。ひめゆり学徒生存者と専門家の審査員による慎重な審査を重ねた結果、2人の原作者が選ばれ、現在アニメ作品と絵本の制作に取り組んでいます。

Tel:098-997-2100 Fax:098-997-2102

<http://www.himeyuri.or.jp>

国内のニュース

江別市セラミックアートセンター：北海道

終戦65年企画「代用品が生み出された時」が2010年7月3日～8月29日の会期で開かれました。15年戦争の時期は軍需物資の優先確保のため民需使用が制限され、「代用品」の開発が推奨されました。特に1938年からは金属使用制限が強化され、同年8月に開催された商工省主催の「代用品博覧会」には多種多様な代用品とともに、金属代用品としての陶磁器製品が出品され脚光を浴びることとなりました。企画展では、製作された「やきもの」による金属代用品に焦点をあて、「衣・食・住」「学・遊」「軍・礼・幣」といった場面ごとに展示紹介していました。展示資料は、ドアノブ、引き出しの把手、洋服掛やアイロン、カフス、或いは鍋、釜やナイフ、フォーク、やかん、さらにはボルトナット、釘やコンセント、蓄音機の針などといった多種多様な代用品371点から構成されていました。また、戦時下の金属供出の状況を示す「鉄・銅製品回収のポスター」や「一

般家庭における金属回収の取扱要領」といった文書資料や戦時下の江別の様子を撮影した写真パネルなども参考展示していました。資料を通して、改めて戦時下のやきものと人びとの生活とのかかわりについて理解を深めるとともに、当時を思い起こし、いろいろな感想を抱いたり、資料を介した世代間の語り継ぎを期待して開かれたものです。図録を作成しています。

Tel:011-385-1004

<http://www.city.ebetsu.hokkaido.jp/ceramic/>

小樽市総合博物館：北海道

企画展「われらの日記―昭和16年・潮見台国民学校学級絵日記」が本館・企画展示室で2010年11月27日～2011年2月13日の会期により開かれました。当時のこどもたちを取り巻く社会の一端を知ってもらうために、1941年の秋から冬にかけて、当時の潮見台国民学校の6年生たちが記録した学級日誌を公開するものです。

Tel:0134-33-2523 Fax:0134-33-2678

<http://www.city.otaru.hokkaido.jp/simin/sisetu/museum/>

釜石市戦災資料館：岩手

釜石市戦災資料館が2010年8月9日に、同市浜町1の市営ビル1階、釜石公民館浜町分館ホールに開設されました。大艦隊により2度にわたって艦砲射撃された戦災都市・釜石に、65年目に戦争と平和に向き合う施設ができたわけです。市郷土資料館が所蔵する約400点の資料のうちから80点余を移し、1. 戦前・戦中の暮らし 2. 捕虜収容所 3. 艦砲射撃 4. 戦後の復興 の4テーマ別に展示しています。入口には艦砲射撃の犠牲者名簿が置かれ、1976年に発行された「釜石艦砲戦災誌」で明らかになった犠牲者753人に、新たに判明の3人を加えた756人を記載しています。8インチ、16インチ砲弾の破片、破壊し尽くされた中心市街地の写真パネル、飛行機の木製プロペラ、出征兵士の日章旗、防空頭巾をかぶった当時の女性の服装なども展示されています。

Tel:0193-22-3551

<http://www.city.kamaishi.iwate.jp/kyoudo/sensai/sensaisiryoukan.html>

由利本荘市本荘郷土資料館：秋田

企画展「戦争の記憶Ⅲ―“戦争の時代”の人々と戦後65年」が2010年7月10日～9月20日の会期で開かれました。戦後65年を迎えた今回の企画展示は、郷土の人びとが満州事変(1931年)から日中戦

争(1937～1945年)を経て太平洋戦争(1941～1945年)に至る15年間の戦争にどのように関わっていったのかを、新たに発掘した貴重な実物資料を交えながらきびしい時代を生き抜いた人びとが綴った手記や記録類、写真などを通して振り返っていました。終戦後の抑留、引揚げ、供出、配給など戦後のさまざまな苦難の多かった暮らしとともに、昭和20年代半ばから後半にかけての復興の息吹と歩みも紹介していました。

関連して「戦争体験を語り継ぐ会」が2010年8月7日に開催されました。

Tel:0184-24-3570 Fax:0184-24-3571

<http://www.city.yurihonjo.akita.jp/icity/>

酒田市立資料館：山形

第164回企画展「戦争と市民生活」が2010年8月5日～9月5日の会期で開かれました。日中戦争から太平洋戦争にかけて、東北の小さな町酒田も戦争の影響を受け多くの市民が辛い目にあい苦しい生活を余儀なくされました。また、戦争末期にはアメリカ軍艦載機の空襲による直接的な被害も受けています。この企画展は戦時下の市民の様子を伝えることで、平和の尊さを考えるために開かれたものです。青い目の人形、陶器製湯たんぽなどの戦時下の生活用品、酒田空襲関係資料、戦地の写真など285点が展示されました。

Tel&Fax:0234-24-6544

<http://www.city.sakata.lg.jp/ou/kyoiku/shakaikyoku/bunkazai/>

水戸市立博物館：茨城

戦争体験語る集い「わたしは戦争を忘れない」が2010年8月15日に開催され、市原毅さん、大山好子さん、佐藤隆男さんの3人の体験者が、水戸空襲や戦中の暮らしについて話しました。

Tel:029-226-6521 Fax:029-226-6549

<http://business4.plala.or.jp/shihaku1/>

埼玉県平和資料館：東松山市

特集展示「フリードルと小さな画家たち―テレジン収容所・4000舞の絵」がギャラリーで2010年10月2日～11月28日の会期により開かれました。第2次大戦当時、チェコの「テレジン収容所」には、ナチスドイツによって1万5千人の子どもたちが収容されていました。美術教師のフリードル・ディッカーは、子どもたちに生きる希望を与えようと収容所内で「絵の教室」を開き、子どもたちがたくさん絵を描き、戦後になって4000枚余りが発見されました。この展示会は野村路子さんから寄贈を受けた

20 枚のテレジンの絵画のパネルを展示したものです。

「寄贈資料が語る戦時の記憶—平成 21 年度新収集資料を中心に」が企画展示室で 2010 年 12 月 21 日～2011 年 1 月 30 日の会期により開かれました。2009 年度は 16 人の方から計 625 点の資料が新たに寄贈されました。その中から、「昭和の幕開け」「グラフ誌にみる戦前・戦中・戦後」「銃後のくらし」「出征と軍隊生活」「学び舎と戦争」の 5 つのテーマを設けて 70 点を紹介しています。人びとの記憶の中から戦争の惨禍は薄れつつある中で、資料が語る戦争の記憶に耳を傾けるために開かれました。

「戦時中の体験を聞く会」が 2010 年 8 月 15 日に開催され、「空襲の記憶」というテーマで、加藤静江さん（川越市在住）、田中一枝さん（坂戸市在住）の 2 人の体験者が疎開や空襲について語りました。

Tel:0493-35-4111 Fax:0493-35-4112

<http://homepage3.nifty.com/saitamapeacemuseum/>

入間市博物館アリット：埼玉

第 14 回平和祈念資料展が特別展示室で 8 月 3 日～8 日の会期により開かれました。戦争の悲しさや平和の尊さについて、改めて考えるために開かれたものです。ヒロシマ・ナガサキ原爆写真パネル、被爆資料など広島平和記念資料館所蔵品、市博物館所蔵品、平和ポスターコンクール入選作品の展示のほか、折り鶴コーナー、ビデオコーナーもありました。

Tel.04-2934-7711 Fax.04-2934-7716

<http://www.alit.city.iruma.saitama.jp/>

蕨市立歴史民俗資料館：埼玉

蕨市平和都市宣言 25 周年事業第 21 回平和祈念展「記念切符でたどる戦後復興」が 2010 年 8 月 1 日～9 月 26 日の会期で開かれました。蕨市は 3 回の空襲により、死者 50 人、被害家屋 400 戸という埼玉県 2 番目の被害をうけました。この悲劇を 2 度と繰り返さないためにも、戦争という事実・記憶を次の世代に伝えなければならないという趣旨で平和祈念展を開催してきました。今回は戦後復興の時代を色濃く反映した記念切符や駅弁の包装紙を中心に紹介し、平和の大切さを考えてようとしていました。展示構成は、空襲被害、伝単、戦後の混乱、日本国憲法の公布、記念切符と弁当の包み紙と列車の写真、レコード、部屋の復元でした。空襲では 1945 年 3 月 10 日の空襲で焼けた勲一等旭日大綬賞や被害地図を、伝単では、ポツダム宣言・空襲予告・沖縄島の日本人・再び平和へなどの伝単を、戦後の混乱では、ジュラルミン製の生活用品、服、リュックサック、外食券、外食券弁当の包み紙を、日本国憲法の公布では、日本国憲法の公布・施行記念切符、新しい憲法

明るい生活、官報(日本国憲法を掲載)などを、記念切符では、行事・催し物、祝い事、はつかり・こだま・修学旅行ひのでのなどの列車の記念切符を、それぞれ展示し、ほかに長崎被爆瓦、墨塗り教科書、DDT 袋、新聞、降伏文書なども展示しています。リーフレット型図録を作成しています。

Tel:048-432-2477

<http://www.city.warabi.saitama.jp/rekimin/index.htm>

我孫子市白樺文学館：千葉

大逆事件 100 周年記念特別展「針文字書簡と大逆事件—事件が文学に与えた影響」展が 2010 年 11 月 2 日～28 日の会期で開かれました。2005 年杉村邸の資料調査によって今回展示することになった針文字書簡が見つかりました。発見当初は、白い紙だと判断されていましたが、調査を重ねるにつれて、「大逆事件」に関連した秘密書簡であることが明らかになっていきました。今回の展示では、大逆事件 100 年を記念して、大逆事件の経過を当時の新聞を使って解説するとともに、この針文字書簡を初公開しました。また、杉村邸で発見された新資料である、幸徳秋水書簡、杉村楚人冠著書も併せて展示しました。また当時の社会情勢に文士たちはどのような影響を受けたのかも紹介していました。展示解説資料を作成しています。

Tel:04-7169-8468

<http://www.city.abiko.chiba.jp/index.cfm/21,0,41,614,html>

せたがや平和資料室：東京

特別展「苦難の日々と戦後の歩み」が教育センター 1 階エントランスホールで 2010 年 8 月 1 日～31 日の会期で開かれました。戦時下の世相や暮らしに焦点をあて、太平洋戦争関連の写真パネルと生活用品などの資料を展示しました。また、平和関連の DVD による小作品（アニメ「一つの花」ほか）を連日放映しました。

Tel&Fax:03-3703-8100

<http://www.city.setagaya.tokyo.jp/030/d00005024.html>

東京大空襲・戦災資料センター：江東区

東京大空襲・戦災資料センター主催の、空襲・戦災を記録する会全国連絡会議第 40 回東京大会が、2010 年 8 月 21 日と 22 日に専修大学神田校舎で開かれました。

第 1 日目の 8 月 21 日は、午後にシンポジウム「空襲・戦災を記録する会 40 年の歴史と今後の展望」を

開催しました。シンポジウムの趣旨は、「空襲・戦災の記録運動も発足から40年をむかえ、若手歴史研究者の研究対象となっています。また、記録運動の担い手も体験者から若い世代へと引き継がれつつあります。若手の研究者を中心に空襲・戦災の記録運動の歴史を科学的に明らかにするとともに、そこから記録する運動の展望を見いだすことをシンポジウムの課題とします。」ということでした。

シンポジウムではまず、東京大空襲・戦災資料センターの山本唯人さんが問題提起をしました。ついで、東京大空襲・戦災資料センターの鬼嶋淳さんの「空襲・戦災を記録する会全国連絡会議の歴史と今後の展望」、15年戦争研究会の佐々木和子さんの「大阪湾岸地域における空襲研究の歴史と展望」、富山大空襲を語り継ぐ会の和田雄二郎さんの「空襲体験者を中心とする語り継ぐ運動の歴史と展望-富山を中心に」、空襲戦災を記録する会全国連絡会議事務局長の工藤洋三さんの「空襲・戦災を記録する活動の最近の成果と「空襲通信」の役割」、ピースあいちの金子力さんの「平和のための戦争資料館運動の現状と展望-『ピースあいち』から」の、各報告がありました。コメントは富山大空襲を語り継ぐ会の中山伊佐男さんの「米軍資料研究を中心として」と、横浜の空襲を記録する会の今井清一さんの「第40回大会の諸報告に想う」の2本がありました。各地の記録する会の歴史と展望についての発言が、神戸空襲を記録する会の中田政子さんと、今治市の戦災を記録する会の新居田大作さんからありました。

第2日目の8月22日は、青森空襲を記録する会、福井大空襲を語り継ぐ会、大牟田の空襲を記録する会、佐世保空襲を語り継ぐ会、岐阜空襲を記録する会、武蔵野の空襲と戦争遺跡を記録する会、千葉大空襲とアジア・太平洋戦争の記録100人の証言編集委員会、神奈川県遺族会、東京大空襲訴訟原告団、東京空襲犠牲者遺族会の各団体からの報告がありました。

第2日目の午後は東京下町の空襲関連史跡・施設の見学をしました。具体的には、東京都戦没者霊苑(碑と遺品展示室)・横網町公園(東京都慰霊堂、納骨堂、復興記念館)・すみだ郷土文化資料館(企画展「2人の空襲体験画家・狩野光男と堀切正二郎-体験を描く「心」」と常設展)・言問橋(隅田公園にある台東区が建てた東京大空襲犠牲者追悼碑、言問橋に残る空襲の傷跡)・浅草寺(被災イチョウを中心に)を見学しました。各施設の案内はバスの中でありました。特に、東京都戦没者霊苑については、神戸空襲を記録する会の長志珠絵さんが「東京都戦没者墓苑の戦中戦後」という資料を作成して説明しました。

大会開催に先立って、8月20日夜と21日午前の2日間にわたって、東京大空襲・戦災資料センター会議室で、「米軍資料の調査・活用に関する研究会」が開催されました。1日目には4テーマ、2日目に

は3テーマの報告がありました。

シンポジウム「空襲・戦災を記録する会40年の歴史と今後の展望」の問題提起・報告・コメント・発言と各地の空襲を記録する会のあゆみアンケートを収録した報告書が、2010年12月27日に刊行されました。

財団法人政治経済研究所附属東京大空襲・戦災資料センター戦争災害研究室主催の第4回シンポジウム「帝国と空襲-イギリス・台湾空襲を検証する」が2010年10月23日に、明治大学駿河台校舎研究棟2階第9会議室において開催されました。

戦争災害研究室では2007年から共同研究「東京大空襲体験の記録化と戦争展示」の一環として、毎年「無差別爆撃」を取り上げたシンポジウムを開催してきました。共同研究の最終年度に開く今回のシンポジウムでは、今までのシンポジウムでは十分扱えなかった、ドイツ軍によるイギリス都市空襲、アメリカ軍による台湾都市空襲をとりあげました。これらの空襲の実態とともに、戦後、それらがどう記憶・記録され、博物館を中心にどう伝えられてきたのかにも焦点を当てようと思いました。帝国本国への空襲、帝国の植民地への空襲を取り上げることにより、空襲の世界史の視野を広げることをねらいとしました。

シンポジウムでは、まず、日本大学法学部准教授で戦争災害研究室研究員の岡田聡さんがシンポジウムの問題提起をしました。第1報告のイギリス都市空襲については、山根和代さんが「イギリスにおける空襲展示について-ロンドン・コヴェントリーを中心に」と題して報告しました。第2報告の台湾都市空襲については、台湾の国立台湾師範大学地理学系助教授の洪致文さんが「第2次世界大戦における台湾空襲」と題して、報告しました。討論では、ロンドン空襲や台湾空襲の体験者の発言もあって、活発な質疑がおこなわれました。

Tel:03-5857-5631 Fax:03-5683-3326

<http://www.tokyo-sensai.net/>

高麗博物館：東京・新宿区

アンコール企画展「失われた朝鮮文化遺産-植民地下での文化財の略奪・流出、そして返還・公開へ」が2010年9月1日~11月14日の会期で開かれました。

企画展「『韓国併合』100年と在日韓国・朝鮮人-(前編)1945年まで」が2010年11月17日~2011年2月27日の会期で開かれています。日本の植民地時代に、朝鮮人はなぜ、どのように日本に渡航して、在住するようになったのか、渡航した人たちは全国各地で低賃金と長時間の過酷な労働条件のもと差別と抑圧を受けながら生き抜いてきたという、歴史の事実と向き合い、未精算の問題を考えるために、この企画展は開かれました。

el & Fax: 03-5272-3510

<http://www.40net.jp/~kourai/>

砂川学習館：東京・立川市

立川市の砂川学習館の中に、旧米軍立川基地の拡張に反対した砂川闘争に関する絵画や写真などを展示する「立川市砂川地域歴史と文化の資料コーナー」が2010年10月18日に開設されました。

Tel: 042-535-5959 Fax: 042-535-5967

<http://www.city.tachikawa.lg.jp/cms-sypher/www/section/detail.jsp?id=170>

東京都江戸東京博物館：墨田区

企画展「東京復興- カラーで見る昭和20年代東京の軌跡」展が常設展示室5階の第2企画展示室で2010年8月4日～9月26日の会期により開催されました。今から65年前の1945年からはじまる10年間は、東京にとってまさに激動の時代でした。同年3月の大空襲から、終戦、占領、そして講和を経ての独立。それは都市や市民生活が大きな転換期を迎え、現在の私たちのライフスタイルが形作られる時期ともなりました。占領と復興という過程から、多くのものが生み出され、取り入れられていったのです。本展は、当時貴重であったカラーフィルムをもちいた写真・映像などにより、昭和20年代東京の姿を鮮やかによみがえらせるもので、多くの資料が初公開でした。この展示から、苦難を乗り越え東京の復興を目指す人びとが描いた夢や憧れを感じて、私たちの未来を見つめなおす機会にするために開かれたものです。

展示構成は次のようでした。

第1章 焼け跡からの再起

空襲の爪痕が残る東京の情景と、そこから復興へ向け力強く歩き始めた人びとの姿を、貴重なカラー映像と写真、当時の生活を支えた品から展覧しています。

第2章 Occupied TOKYO (オキュパイド・トーキョー)

GHQの進駐により、6年8か月に渡り占領下に置かれた東京。占領へといたる過程と、なかば異国のように変貌した東京の姿を、当時の資料から振り返っています。

第3章 幻の復興計画

焼け野原となった東京を、理想の都市へと生まれ変わらせるべく掲げられた戦災復興計画。その広報のため制作された映画『二十年後の東京』を中心に、計画の全容と結末、そして実際の復興過程を紹介しています。

第4章 米兵たちの見た TOKYO

占領期、米兵たちは復興を遂げる東京と人びとの

生活を見つめ、一方日本人は、垣間見える豊かなアメリカの姿を、憧れを持って見つめます。その憧れは、日本を高度成長へと導く原動力ともなりました。それぞれの眼差しが交錯する占領下の東京を展覧しています。

第5章 占領から成長へ

占領期が終わり、復興から経済成長へと向かう時代の移り変わりを、当時の世相・流行を示す資料や、日本人の手によるカラー写真などから辿っています。

関連して、えどはくカルチャー「写された戦後東京- 米兵達の記録から」が2010年8月27日に1階会議室で開かれ、学芸員の沓沢博行さんが展覧会の中心となっている占領期のカラー写真・映像について、撮影された背景や被写体に関する解説も交えながら話しました。

Tel : 03-3626-9974

<http://www.edo-tokyo-museum.or.jp/>

昭和のくらし博物館：東京・大田区

特別展「小泉家に残る戦争」展が2010年8月1日～31日の会期で開かれました。「戦争はいけない」と言い続けるために、博物館では開館以来、毎年8月に「小泉家に残る戦争展」を開いています。戦時中の絵日記やパン焼き器、千人針、防空頭巾など、今なお家庭に残る戦争の傷跡から、平和への意志を再確認するために開いたものです。

Tel & Fax: 03-3750-1808

<http://www.showanokurashi.com/>

渋沢史料館：東京・北区

テーマ展・シリーズ“平和を考える”第3回「渋沢栄一と関東大震災- 復興へのまなざし」が2010年8月7日～9月23日の会期で開かれました。1923年、関東大震災に直面した渋沢栄一は、民間の経済人として救護・救援活動に力を尽くしました。震災復興80年の本年、災害を受けた都市の復興のみならず人びとの心の復興をも目指した栄一の活動を紹介する展示会です。

Tel : 03-3910-0005

<http://www.shibusawa.or.jp/museum/>

明治大学平和教育登戸研究所資料館：神奈川県川崎市

明治大学平和教育登戸研究所資料館の第1回企画展「戦争遺跡写真展・登戸研究所から戦争遺跡を見る- 川崎を中心に」が2010年11月3日～12月18日の会期で開かれました。登戸研究所に関連する川崎市内の未公開写真を含めた戦争遺跡の写真などが展示されました。今回の企画展は、登戸研究所をは

じめ、各地の戦争遺跡を長年撮影している写真家の小池汪さんの協力のもと、研究所と他施設との関係や旧陸軍での位置づけについて考察することを目的に企画されたものです。

関連して、記念講演会が2010年11月3日に開催されました。1960年代当時の生田キャンパス（登戸研究所跡地）が撮影に使用されている熊井啓監督作品「帝銀事件・死刑囚」（1964年）の上映に続いて、山田朗館長（文学部教授）が「登戸研究所と秘密戦」と題して講演しました。

Tel:044-934-7993

<http://www.meiji.ac.jp/noborito/index.html>

愛川町郷土資料館：神奈川

企画展「戦争の記憶」が企画展示室とエントランスホールで2010年8月1日～31日の会期で開催されました。戦争の悲惨な史実を風化させないためにも、その記憶を後世に伝えていきたいと開催されたものです。展示は、相模陸軍飛行場関係、町内からの従軍者や引揚者の資料が中心でした。

Tel:046-280-1050 Fax:046-280-1051

http://www.town.aikawa.kanagawa.jp/shisetsu/cul/cul_01.html

阿智村中央公民館：長野

「戦時ポスター展」が2010年8月21～29日の会期で開催されました。原好文さんより、阿智村の村長だったお父さんが「平和のために、忘れてはならない。」と保管していた戦時中のポスター103点が、村へ寄託されました。今回の展示会では、このうちの10点が展示されました。

満蒙開拓平和記念館事業準備会による「満蒙開拓歴史展」が阿智村中央公民館ロビーで2010年8月21～29日の会期により開催されました。現在の中国東北地方、「満州」には昭和初期に多くの開拓団員が渡り、日中双方の大きな犠牲を出しました。長野県は最も多くの開拓団を送り出した県であり全開拓団の14%を占めています。阿智村を含む飯田・下伊那地域からも多くの人が満州へと渡りました。展示では満蒙開拓の歴史を、1. 昭和恐慌と「満州国」 満州建国まで 2. 敗戦と逃避行 開拓団を襲った悲劇 3. 新天地「満州」へ 27万人農業移民送背景 4. 戦後の苦難 今も続く中国残留邦人の苦しみ の4期に分けてパネル展示していました。なぜ人びとは満州に渡ったのか、歴史の彼方に消えた「満州国」とは一体なんだったのか、を時代背景とともに写真や資料でたどるものでした。

Tel:0265-43-2061

<http://www.vill.achi.nagano.jp/info/tyosya.html>

柳津歴史民俗資料室：岐阜市

展示会「戦時下のポスター（2）資金の提供」が2010年8月3日～9月5日の会期で開催されました。戦争遂行・戦意昂揚のための宣伝手段として、戦時下にはさまざまなポスターが作成・掲示されました。本展ではそのなかから、資金の提供に関わるものを選んで展示していました。増大する戦費をまかなうため、政府は公債の購入や貯金、金の供出を国民に奨励しました。女性や子どもを配し、あるいは力強く目標達成を訴えるポスターは、否応なく資金提供へと駆り立てられる当時の国民のようすを伝えていました。

Tel:058-270-1080

<http://www.city.gifu.lg.jp/c/40120461/40120461.html>

羽島市歴史民俗資料館・映画資料館：岐阜

企画展「昔のくらしと道具展-戦争と人々のくらし」が岐阜市や「岐阜空襲を記録する会」の協力をえて、2010年10月9日～12月18日の会期で開催されました。岐阜空襲の惨状を伝える写真パネルや、実際に使われた焼夷弾を特別に展示し、戦争が人びとの生活を破壊し、尊い人命を奪うものであることを伝えていました。また、館所蔵の広島原爆をあびた瓦をはじめ、陸軍航空隊の飛行服や軍服など、戦時中を物語る資料273点を展示していました。戦時中の様子を顧み、戦争を風化させることなく、平和を希求する意識を高めてもらいたいと思って開催されたものです。

昔のくらしと道具展は2000年から毎年続けて開催していますが、戦争をサブテーマにあげたのは2010年がはじめてです。これまで、「戦後55年を歩んだ 羽島の平和展」を2000年8月15日～11月26日の会期で、「戦争と平和展」を1996年12月8日～27日の会期でそれぞれ開催しています。

Tel:058-391-2234 FAX:058-391-7663

<http://www.hashima-rekimin.jp/>

静岡平和資料センター：静岡市

「満蒙開拓」展が静岡平和資料館をつくる会と静岡市教育委員会の共催により、静岡市役所・市民ギャラリーで2010年8月10～15日の会期により開催されました。今年は、アジア太平洋戦争敗戦から65年目にあたります。1931年、日本が武力侵略により植民地とした中国東北部「満州」に、国の政策によって多くの人びとが満蒙開拓団や青少年義勇軍として送り出されました。その農地のほとんどは日本が非常に安く強制的に買い上げたものでした。そのため敗戦時には、ソ連軍の攻撃と日本の支配に強い不

満をもっていた中国農民の激しい襲撃にあい、8万人以上の犠牲者を出しました。そして、今なお、帰国できない人がいます。この「満州開拓」という事実を、歴史のかたに消えさせてはいけません。「満州開拓」をしっかりと検証して記憶にとどめ、生存者の方がたが口をそろえて言う「二度と戦争はいやだ」ということばの重さを伝えたいと思い、この展示が企画されました。

展示内容は、第1室 国策・満蒙開拓のあゆみ、第2室 静岡県が創出した開拓団・青少年義勇軍、第3室 逃避行、第4室 中国帰国者（「残留孤児・残留婦人」）、第5室 イベント ＊体験画展示 ＊語り部さんによる体験談 ＊スライドショー「現在の旧満州」 ＊紙芝居『ともちゃんのおへそ』 ＊アニメ『蒼い記憶』上映 などでした。

企画展「『満蒙開拓』13人の証言展- 静岡開拓民と中国農民が語る」が静岡平和資料センターで2010年10月15日～2011年2月20日の会期により開かれました。満州開拓や凄惨な悲劇は何だったかを伝える展示会です。

平和を考える戦争遺跡めぐりが2010年10月31日に開催され、体験者の話を聞きながら、三保・清水地区の三保震洋掩体壕→甲飛行予科練の像→一乗寺→妙慶寺→美濃輪稲荷→岡町八幡神社→清水カトリック教会などをまわりました。

静岡平和資料館をつくる会は『戦後六十五年の追憶- 戦地からの手紙・静岡空襲・戦争中の暮らし』を刊行しました。兵士ら7名の手紙と戦争体験者の手記39編を掲載しています。

Tel:054-247-9641 Fax:054-247-9641
<http://homepage2.nifty.com/shizuoka-heiwa/>

富士市立博物館：静岡

歴史民俗資料館に新コーナー「戦争とくらし- 平和資料コーナー」が2010年7月27日に開設されました。今から83年前の1927年、日米の親交を願って、アメリカから12000体あまりの「青い目の人形」が全国の小学校や幼稚園に贈られました。人形達は各地で盛大な歓迎を受けました。しかし、1941年に始まった太平洋戦争によって、アメリカは敵国となりました。その結果、多くの人形は竹やりでつかれたり、燃やされたりして失われることとなり、現在では約300体しか確認することができません。そのうちの1体が、富士川第一幼稚園に贈られ、大切に保管されてきた「青い目の人形メリー」です。多くの子供たちの成長を見守ってきた「青い目の人形メリー」は現代の私たちに平和の大切さを伝える貴重な資料となっています。この「戦争とくらし」コーナーでは「青い目の人形メリー」をはじめ、市民から寄贈された戦争にかかわる資料を展示しています。この展示は、戦争という出来事の中で当時の人びと

がどのように暮らしていたのか、そして、平和の大切さについて考えるきっかけとするために開設されたものです。

Tel:0545-21-3380
<http://museum.city.fuji.shizuoka.jp/cms/>

フェルケール博物館（財団法人・清水港湾博物館）：静岡市

企画展「海に消えた徴用船たち」が2010年8月14日～10月3日の会期で開かれました。徴用船とは戦時体制下で国家の名のもとに集められ、戦争のために軍艦（戦艦・航空母艦・巡洋艦・駆逐艦など）に改造された船のことです。もともと商船として貨物や旅客を扱い、平和と豊かさの象徴として世界の海で活躍していました。しかし戦争が始まると同時に船舶が不足するようになり、商船と船員を徴用して軍力強化のため戦時に当たさせたのです。今回の展示会では、企業努力で営々と築いてきた会社の財産である優秀な船舶を、戦線に送り出さなければならなかった船舶会社の姿を、失われた徴用船の状況から振り返ってみるものです。展示は模型船と船舶画家・上田毅八郎氏の絵画で構成していました。

Tel:054-352-8060
<http://www.suzuyo.co.jp/suzuyo/verkehr/>

瀬戸蔵ミュージアム：愛知

終戦65年企画「代用品が生み出された時」が蔵特別展示室で2010年10月2日～11月28日の会期により開かれました。日中戦争から太平洋戦争にかけて、瀬戸をはじめ各地のやきもの産地で、鉄や銅などの不足する物資の代わりに、さまざまなやきもの製品が開発されました。ガスコンロやアイロンなど衣食住の日用品から貨幣などの特殊な製品まで作られました。この企画展では、終戦65年の節目の年にあたって、当時を振り返りながら、これらの代用品に焦点をあて、戦時下のやきものと人びとの生活の関わりを見つめ直すものでした。瀬戸蔵ミュージアム所蔵の代用品を展示した、江別市セラミックアートセンターの終戦65年企画「代用品が生み出された時」の図録を販売していました。

Tel:0561-97-1555 Fax:0561-97-1557
<http://www.city.seto.aichi.jp/sosiki/setogura/002492.html>

栗東歴史民俗博物館：滋賀

ロビー展示「平和のいしずえ2010- アジア・太平洋戦争と報国運動」が2010年7月31日～9月5日の会期で開かれました。栗東歴史民俗博物館では栗東市の「心をつなぐふるさと栗東」平和都市宣言を

うけて、1990 年度から戦争と平和をテーマとする「平和のいしずえ」展を開催してきました。これは市内外の所蔵者から提供された資料を通じ、近代以降の戦争の歴史と戦時下の生活を再現することで、地域の視点から平和について考えようとするものです。2010 年度はアジア・太平洋戦争下で“尽忠報国”“挙国一致”“堅忍耐久”などのスローガンのもと、すべて国や軍事、戦争遂行を第一にし、制約された生活を強いられた銃後の生活を特集していました。陶製羽釜、紙製洗面器、学童服、代用品のボタン、金属回収買上伝票綴、ポスター「荒鷲のために蓖麻を栽培しよう」・「国債を買いませう」、国防婦人会大宝村分会の写真パネル、大日本国防婦人会治田村分会記録、千人針、名誉国旗納入箱、寄書日章旗、国防婦人会たすき、愛国婦人会たすき、青年学校手帳、金勝青年学校女子部報国隊写真パネル、軍事教練査閲の写真パネル、愛国貯金通帳、栗太貨物自動車運輸株式会社産業報国会旗、産業報国会標語、滋賀県産業報国新聞などを展示していました。
Tel:077-554-2733 Fax:077-554-2755
<http://www2.city.ritto.shiga.jp/hakubutsukan>

向日市文化資料館：京都

夏のミニ展示「くらしのなかの戦争」展が2階展示室で2010年8月1日～9月5日の会期により開催されました。市民から提供された戦争関係の資料の中から、戦時下における地域での衣食住の様子を物語る資料を中心に展示して、平和について考える場としていました。

文化資料館の職員が日頃の展示準備や資料調査の中からテーマを決めて話す、日曜談話会第2回「戦時下のくらし」が2010年8月22日が開催されました。夏のミニ展示「くらしのなかの戦争」展の開催にあわせたもので、戦時下の地域でのくらしの様子を、展示説明も兼ねて、紹介していました。
Tel:075-931-1182 Fax:075-931-1121
<http://www.city.muko.kyoto.jp/bunka/shiryokan.html>

大山崎町歴史資料館：京都

小企画展第12回「平和のいしずえ」展が2010年8月10日～29日の会期で開催されました。戦前、戦中の資料をもとに、アジア太平洋戦争時の歴史を振り返り、平和の尊さを考えるもので、2010年は「子どもたちの学び」をテーマに、戦時中に小学生が書いた作文や絵、遊びに使ったかるたなど、当時の世相を映し出した約40点を展示していました。
Tel&Fax:075-952-6288
http://www.town.oyamazaki.kyoto.jp/contents_detail.php?co=kak&frmId=159

大阪国際平和センター（ピースおおさか）：大阪市

特別展「写真に見る『戦争』と『平和』 in アフガニスタン」が1階特別展示室で2010年7月27日～11月23日の会期により開かれました。世界で今、最も注目される戦乱の地、アフガニスタンは本来、自然豊かな大地に多民族が生き生きと暮らす国だったのです。「戦争」と「平和」で、人びとの表情がどれだけ違ってしまうのか、アフガニスタンが平和だった30年前のころと、現在の混乱のようすを写真で比較することにより、その意味するところを考えるものでした。長島義明さん撮影写真、アフガニスタンの子どもの絵など、約60点の写真・絵・文字パネルや、民族衣装など約30点の実物資料を展示しました。

特別展「戦争の犠牲となった動物たち」が1階特別展示室で2010年12月5日～2011年2月20日の会期で開かれました。かつて、戦争のために動物たちの命をうばった時代がありました。なんの罪もない動物を犠牲にする戦争の愚かしさを考えるために開催されるものです。戦時下の動物園など約70点の写真・絵・文字パネルや、命をうばわれた動物たちのはく製など約30点の実物資料を展示しています。

開戦の日 平和祈念事業 講演会「戦争と動物園 - 平和といのちの大切さ」が2010年12月5日に1階講堂で開かれ、大阪府立大学獣医外科学教室会前会長の高橋正憲さんが講演しました。
Tel:06-6947-7208 Fax:06-6943-6080
<http://www.peace-osaka.or.jp/>

堺市立平和と人権資料館（フェニックス・ミュージアム）：大阪

企画展示「原爆展- 広島・長崎の記録」が2010年8月1日～9月30日の会期で開かれました。広島・長崎の被爆の惨状の写真を通じて、核兵器の惨禍、恐ろしさ、戦争の悲惨さ・平和の尊さを訴えるものでした。

Tel:072-270-8150 Fax:072-270-8159
http://www.city.sakai.osaka.jp/city/info/_jinken/

吹田市平和祈念資料室：大阪

企画展「オキナワ 90 日間の死闘の島」が2010年8月17日～31日の会期で開かれました。住民を巻き込んだ地上戦となった沖縄戦の写真パネル展です。
Tel&Fax:06-6387-2593
<http://www.city.suita.osaka.jp/home/soshiki/div-jichijinken/jinken/original/000338.html>

箕面市立郷土資料館：大阪

企画展示「戦時生活資料展」が2010年8月6日～30日の会期で開かれました。箕面市立郷土資料館は1989年の開館以来、毎年夏の時期に「戦時生活資料展」を開催してきました(施設移転にともなう2006年は除く)。戦後65年目をむかえる今年も、平和の尊さを祈念するとともに、戦争の悲惨さや戦争の記憶を風化させないために、「戦時生活資料展」を開催しました。展示資料の多くは、市民から寄贈されたものです。展示作業は、博物館実習生が、資料整理員の市民の指導のもと、担当しました。本展は、資料の寄贈者、展示を指導し市民、展示作業をおこなった博物館実習生を始めとする、関係者の反戦と平和への願いが込められた展示でした。今の日本の平和が永遠に続くとともに、世界中から戦争・紛争などの争い事がなくなることを祈って開かれたものです。砂弾、千人針、子ども用雑誌、陶器製の錘や湯たんぼ、防火アンプルなどを展示していました。展示資料目録を作成しています。

Tel:072-723-2235 Fax:072-724-9694
<http://www2.city.minoh.osaka.jp/KYOUND0/>

泉佐野人権文化センター：大阪

第1回「戦争・平和 資料およびパネル展」が2010年8月4日～16日の会期で開かれました。資料展では、戦時中のラッパ、木銃、水筒、奉公袋などを展示し、パネル展では、広島市の被爆後の状況、戦時中の人びとの生活の様子を展示しました。

Tel:072-464-5725 Fax:072-469-2284
<http://www.city.izumisano.osaka.jp/ka/n-kaikan.html>

安中新田会所跡 旧植田家住宅：大阪・八尾市

「植田家に残る戦争資料展-戦時下のくらし」が2010年7月15日～8月29日の会期で開かれました。旧植田家に残る資料から、戦時下で、人びとはどのような生活を営み、どのように戦場の様子を知ったか、を伝える展示会でした。

Tel&Fax:072-992-5311
<http://kyu-uedake.jutaku.jp/>

天王寺動物園：大阪市

特別企画展「戦時中の動物園」が動物園内レクチャールームで2010年8月9日～24日の会期で開かれました。第二次世界大戦中、天王寺動物園では10種26頭のライオン、トラなどの猛獣を「処分」しました。今回の展示では、戦時中に処分されたヒョウ

やライオン、ベンガルトラなどの剥製を5点、当時の動物園に関する写真パネル・新聞記事の他に、吹田市平和祈念資料室から借りた千人針など戦争に関する物品や写真パネルを数十点展示しました。また、当時の動物園の様子を撮影した記録映像を上映するコーナーを設けました。さらに動物園スタッフによる戦時中の動物園の講話も実施しました。

Tel:06-6771-8401
<http://www.jazga.or.jp/tennoji/>

姫路市平和資料館：兵庫

「市立中学校 平和展」が2010年9月11日～26日の会期により開かれました。

秋季企画展「戦前・戦後の学校生活」が2010年10月2日～12月23日の会期で開かれました。戦前から戦後にかけての教育制度、教科書、給食などの変遷に関する、写真資料42点、実物資料282点を展示していました。教育制度については、「学制」から始まる近代学校制度について、教育勅語、二宮金次郎の像、奉安殿、戦時期の「国民学校」、戦後の6・3年制度への変革などを紹介していました。教科書は、戦前教科書、軍国主義が反映している戦時中の教科書、戦後の軍国主義・国家主義的な部分を墨で塗って隠した「スミ塗り教科書」などを展示していました。学校給食は、日本で初めての学校給食、戦中の学校給食の中断、戦後はララ物資・ガリオア資金から給食が復活していったことなどについて、各年代の模型写真を使用して伝えていました。学校給食の模型写真は(財)千葉県学校給食会が提供し、教科書は姫路市平和資料館や京都市学校歴史博物館所蔵の教科書を展示していました。

関連して2010年10月31日に「姫路空襲体験談を聞く会」が開かれ、黒田権大さんが話をされました。
Tel:0792-91-2525 Fax:0792-91-2526
<http://www.city.himeji.hyogo.jp/heiwasisiryo/>

水平社博物館：奈良・御所市

第11回企画展「コリアと日本-「韓国併合」から100年」が2010年12月10日～2011年3月27日の会期で開かれています。「韓国併合」から100年を迎える2010年にあたり、朝鮮と日本が歩んできた歴史を振り返り、今後のコリアと日本の関係を考えるものです。

Tel:0745-62-5588 Fax:0745-64-2288
<http://www1.mahoroba.ne.jp/~suihei/>

広島平和記念資料館：広島市

広島平和記念資料館・国立広島原爆死没者追悼記念館共同企画展「国民義勇隊-原爆被害を大きくし

た広島市の建物疎開」が東館地下1階展示室(5)で2010年7月16日～12月15日の会期により開かれました。国民義勇隊は本土決戦に備えて国民を動員するために編成された組織ですが、広島でも地域や職場ごとに編成されました。その多くは広島市の中心部の建物疎開に動員され、8月6日の原爆投下により被爆しました。残された記録が少ないため、編成過程、被爆当日の動員や被害の全容を明らかにできませんでしたが、わずかに残された町村や企業の記録、遺族の手記、市民が描いた原爆の絵などを通して、国民義勇隊の被害状況や残された人の悲しみと苦難の一端を紹介していました。

展示構成は、はじめに、1. 国民義勇隊の編成、2. 建物疎開、3. 地域国民義勇隊 大竹地区国民義勇隊 広島市国民義勇隊草津大隊 川内村国民義勇隊、4. 紙芝居・国民義勇隊、5. 職域国民義勇隊 藤川製鋼所国民義勇隊 油谷重工国民義勇隊、6. 国民義勇隊の被害の全容、おわりに でした。図録を刊行しています。

Tel:082-241-4004 Fax:082-542-7941

<http://www.pcf.city.hiroshima.jp/>

広島県立美術館：広島市

特別展「広島から広島 - ドームが見つめ続けた街展- 広島県産業奨励館と原爆ドームの95年」が2010年8月5日～9月20日の会期で開かれました。1915年に建てられた広島県産業奨励館(現在の原爆ドーム)は、ウィーン分離派芸術の流れを汲んだ最新のデザインで、広島市のシンボルであり、また誇りでもありました。1945年8月6日の被爆後は平和のシンボルとなり、現在は世界遺産に登録されたこの名建築がたどった95年の道のりを、広島市の文化と街の変遷とともに展覧したものです。図録を刊行しています。

Tel:082-221-6246 Fax:082-223-1444

<http://www1.hpam-unet.ocn.ne.jp/>

福山市人権平和資料館：広島

企画展「漫画家たち百二十二名の八月十五日」が2010年8月3日～9月15日の会期で開かれました。1945年8月15日を体験した漫画家たちが、その瞬間の気持ちを、喜び・怒り・悲しさ・つらさを込めて描いた作品を展示していました。

企画展「沖縄の歴史と文化」が2010年9月19日～11月28日の会期で開かれました。2010年は日米両政府の間で締結された復帰協定から、40年という節目の年です。琉球王国時代から島津藩による支配、明治政府による琉球処分と沖縄県の誕生、太平洋戦争と米軍統治下の諸問題、そして本土復帰と基地問題など、近世から現代に至る沖縄の歩みをた

どりながら、今日の沖縄がかかえる問題について考えるものでした。

企画展「10ふくやま人権平和フォト市民作品展」が2010年12月1日～26日の会期で開かれました。日々の生活の中で、一人ひとりの人権が大切にされ、心豊かに希望を持って生きている瞬間や、平和な社会を表現する写真を広く市民から募集し、「市民が参加する人権週間」として展示したものです。

福山市内戦争遺跡めぐりが2010年8月28日に開かれ、市内に残る戦争のつめ跡や軍関係施設跡などを徒歩と大型バスで訪ね、戦争の愚かさと平和の大切さを学ぶ催しでした。

Tel:084-924-6789 Fax:084-924-6850

<http://www.city.fukuyama.hiroshima.jp/jinkenheiwashiryokan/>

おのみち街かど文化館：広島

「戦時下ノ尾道- 回覧板が語る戦争の記憶」展が2010年7月31日～8月31日の会期で開かれました。市内の旧家で見つかった太平洋戦争開戦前から1942年ごろまでの回覧板261点のうち約40点が展示されました。隣組で回されていたもので、配給、戦時国債の押しつけ、防空訓練などの実態がうかがえるものです。ほかに、戦時中の紙芝居も展示し、戦時下の茶の間を再現していました。

Tel:0848-25-7366

http://ecobb.jp/onomichi/www2/index.php?act=spot&spot_id=845

世羅町大田庄歴史館：広島

企画展示会「平和への証言- 終戦65周年記念展示会」が2010年7月30日～9月12日の会期で開かれました。

Tel:0847-22-4646 Fax:0847-22-4647

<http://www.town.sera.hiroshima.jp/boe/rekisikan.html>

高松市市民文化センター平和記念室：香川

企画展「平和学習のために- 戦時中の暮らしを中心に」が高松市市民文化センター1階ロビーで2010年8月20日～9月5日の会期により開催されました。写真週報、レコード盤、紙芝居や、戦時下の学校や家庭の様子などを展示しました。

「高松戦災・原爆写真展」が高松市役所1階市民ホールで2010年8月2日～3日の会期により開かれ、高松の被災や原爆の惨状の写真・絵画・遺品とともに、空襲下のガザ地区の惨状の写真も展示されました。

「教職員のための平和教育講演会」が2010年8月

24日に開催され、高松空襲を記録する会の喜田清さんが高松空襲の体験談を話されました。

Tel : 087-833-7722 Fax : 087-861-7724
<http://www.city.takamatsu.kagawa.jp/1794.html>

多度津町立資料館：香川

「戦争資料展 2010」が2010年8月1日～29日の会期で開かれました。多度津町立資料館は戦争の悲惨さ、愚かさを伝え、平和の大切さを改めて考えるために、毎年8月に戦争資料展を開いています。例年展示している、地域の戦時下の代用品をはじめとする生活関係資料や遺品、受け入れた集団学童疎開関係資料などに加えて、2010年は特に原水爆禁止香川県協議会から資料提供をうけて原爆関連写真パネルも出展しており、合計計約200点を展示していました。

Tel : 0877-33-3343
<http://www4.ocn.ne.jp/~t-kaikan/siryoul.html>

高知市立自由民権記念館

2010年度特別展「幸徳秋水展 ―その生涯と思想―」が1階自由ギャラリーで2010年9月11日～11月14日(日)の会期により開かれました。2010年は大逆事件検挙から百周年で、2011年は幸徳秋水没後百周年にあたります。今回の特別展では、秋水の生涯を「1、生い立ち・家庭」「2、民権少年」「3、兆民の書生になる」「4、結婚」「5、社会主義者となる」「6、日露戦争に対して非戦論を唱える」「7、渡米」「8、大逆事件により刑死」のテーマに分け、幸徳秋水の生涯と思想を県内関係施設などから借用する資料や解説パネル等で紹介していました。そして特に、秋水がなぜ社会主義者になったのか、なぜ非戦論を展開したのか、なぜ大逆事件で刑死しなければならなかったのかを一緒に考えようとするものでした。

関連して、記念講演会「日露戦争と非戦論」が2010年10月16日に1階民権ホールで開かれ、高知市立自由民権記念館長の松岡僖一さんが講演しました。
Tel:088-831-3336 Fax:088-831-3306
<http://www.i-minken.jp/>

飯塚市歴史資料館：福岡

企画展「戦争と人々のくらし展」が2010年8月5日～29日の会期で開かれました。国民学校の教科書、黒塗り教科書、防空ずきん、慰問の菓子袋、将棋など、戦争を語り伝える生活用品50点が展示されました。

Tel&Fax:0948-25-2930
<http://www.city.iizuka.lg.jp/rekishu/index.htm>

国立長崎原爆死没者追悼平和記念館：長崎市

原爆写真展「長崎原爆を撮ったカメラマン」が2010年8月2日～8日の会期で開かれました。
Tel:095-814-0055 Fax:095-814-0056
<http://www.peace-nagasaki.go.jp/>

薩摩川内市川内歴史資料館：鹿児島

ミニ企画コーナー「終戦記念展示」が2010年8月3日～29日の会期で開かれました。
Tel : 0996-20-2344 Fax : 0996-20-2848
<http://rekishi.sendai-net.jp/index2.htm>

沖縄県平和祈念資料館：糸満市

開館10周年記念特別企画展「沖縄のこころを世界へ」が2010年10月10日～12月28日の会期で開かれました。資料館のこれまでの歩みや、資料館収蔵品による「資料100選」、児童生徒の平和メッセージが展示されました。

18か国の世界の子どもたちを紹介する、第3回子ども・プロセス企画展が2010年10月10日～11月14日の会期で開かれました。

第4回子ども・プロセス企画展「人権ってなあに？－人権について考えよう」が2010年12月4日～12月28日の会期で開かれました。

Tel : 098-997-3844 Fax : 098-997-3947
<http://www.peace-museum.pref.okinawa.jp>

おことわり

無署名の記事は、編集者の責任でまとめたものですが、署名記事は執筆者の責任で書かれたもので、必ずしも「平和のための博物館・市民ネットワーク」の事務局や編集者の見解を示すものではありません。

編集後記

海外のニュースの和訳では、谷川佳子さん、今井てるみさん、森岡純子さんに協力していただきました。心よりお礼申し上げます。